

地域福祉に関するアンケート調査
調査結果報告書

令和7年6月

いわき市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	実施内容	1
3	調査項目	1
4	報告書を見る際の注意事項	1
II	調査結果	2
1	回答者の属性	2
2	地域の交流について	5
3	地域での暮らしについて	9
4	地域でのボランティアなどの活動について	18
5	福祉サービスの情報について	24
6	権利擁護に関する制度について	30
7	再犯防止の取り組みについて	35
8	災害発生時の備えについて	38
9	地域における福祉体制づくりについて	43
10	自由意見	47

I 調査概要

1 調査の目的

次期地域福祉計画の策定にあたり、地域での市民の日常生活や福祉活動の実態、地域福祉に対する意識やニーズ等について把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として実施した。

2 実施内容

- (1) 対 象 者 市内在住の概ね 18 歳以上の市民
- (2) 回答方法 Web 回答（Logo フォーム）
- (3) 調査期間 令和 7 年 5 月 2 日（金）～ 5 月 22 日（木）
- (4) 回 答 数 657 件

3 調査項目

- 回答者の属性（性別、年齢、居住形態、職業、居住地区など）
- 地域の交流について
- 地域での暮らしについて
- 地域でのボランティアなどの活動について
- 福祉サービスの情報について
- 権利擁護に関する制度について
- 再犯防止の取り組みについて
- 災害発生時の備えについて
- 地域における福祉体制づくりについて

4 報告書を見る際の注意事項

- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してある。
- 百分率は小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が 100％にならないことがある。
- 1 つの質問に 2 つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が 100％を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。
- 性別・年代別等のクロス集計表については、調査数は回答者数、選択肢は回答比率を記載している。また、表中、1 番目に割合の高い回答を「濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、3 項目以上に網掛けをしている場合がある。

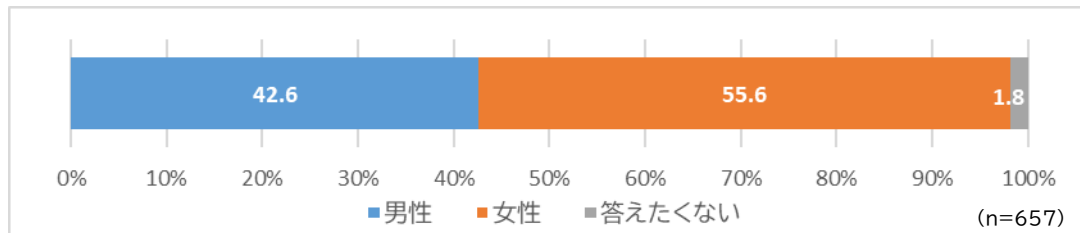
Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

(1) 性別

問1 あなたの性別を教えてください。(1つだけに○)

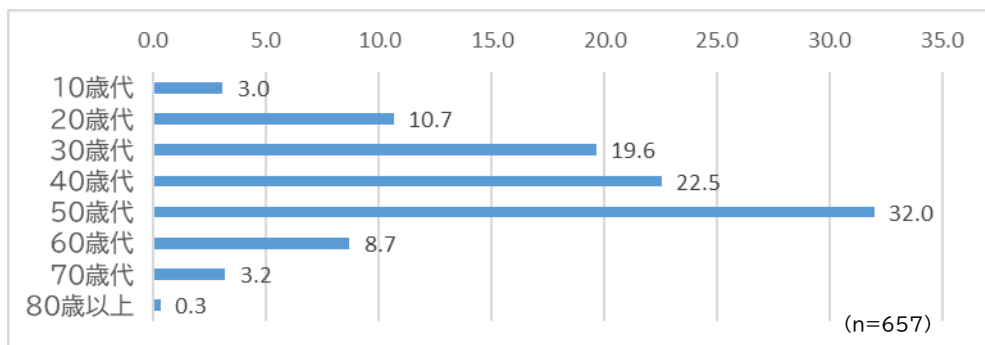
- ▶ 回答者の性別は、「男性」が42.6%、「女性」が55.6%となっている。



(2) 年齢

問2 あなたは何歳ですか。(1つだけに○)

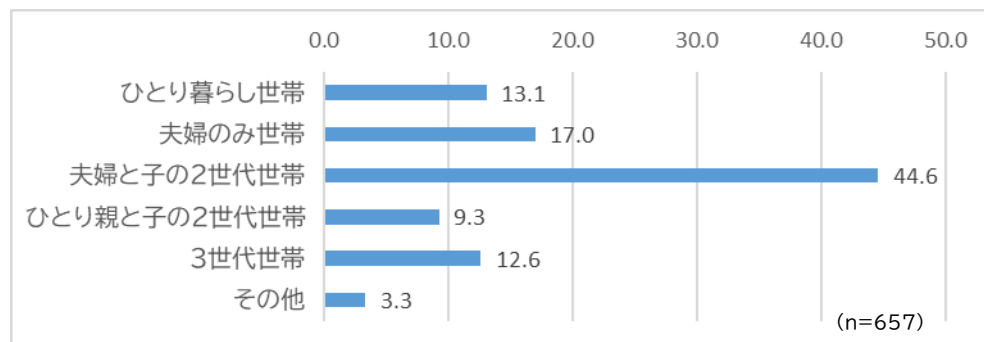
- ▶ 回答者の年齢は、「50 歳代」が 32.0%と最も高く、次いで「40 歳代」(22.5%)、「30 歳代」(19.6%) の順となっている。



(3) 世帯の家族構成

問3 あなたは誰と住んでいますか。(1つだけに○)

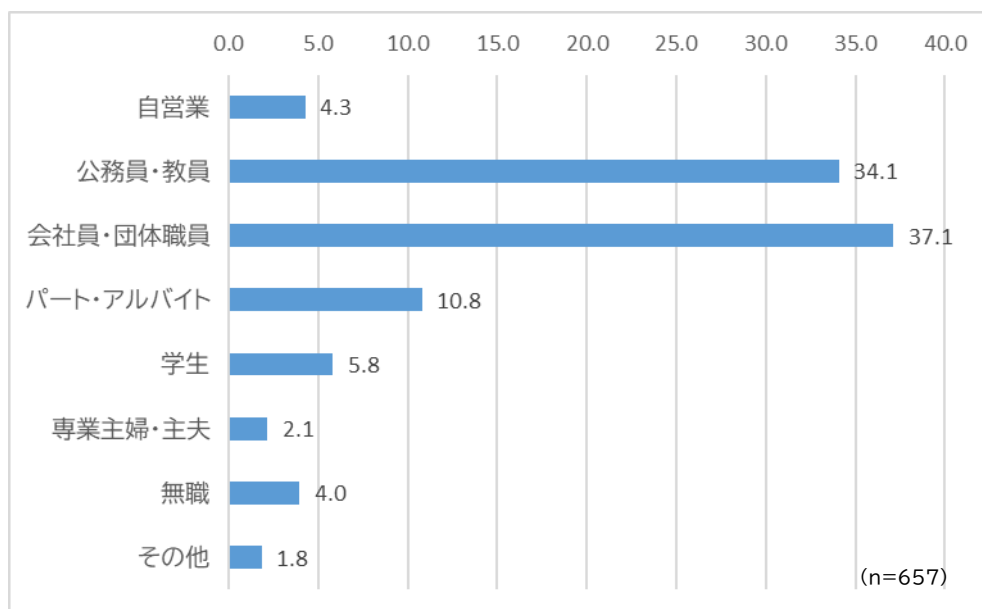
- ▶ 回答者の世帯の家族構成は、「夫婦と子の2世代世帯」が44.6%と4割以上を占めて最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」(17.0%)、「ひとり暮らし世帯」(13.1%) の順となっている。



(4) 職業

問4 あなたの仕事は何ですか。(1つだけに○)

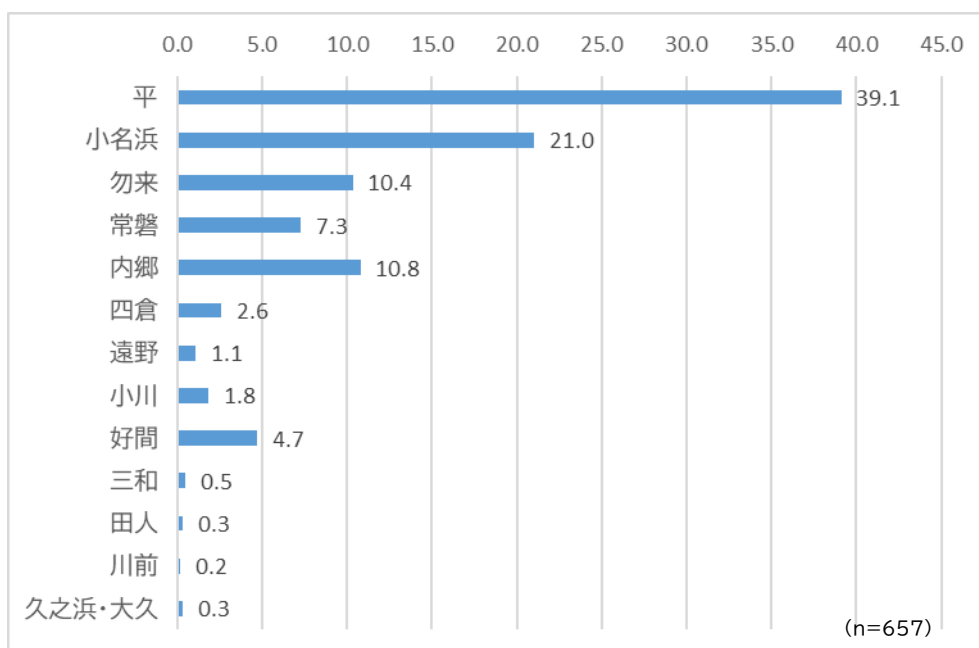
- ▶ 回答者の職業は、「会社員・団体職員」が37.1%と最も高く、次いで「公務員・教員」(34.1%)、「パート・アルバイト」(10.8%)の順となっている。



(5) 居住地区

問5 あなたはどこに住んでいますか。(1つだけに○)

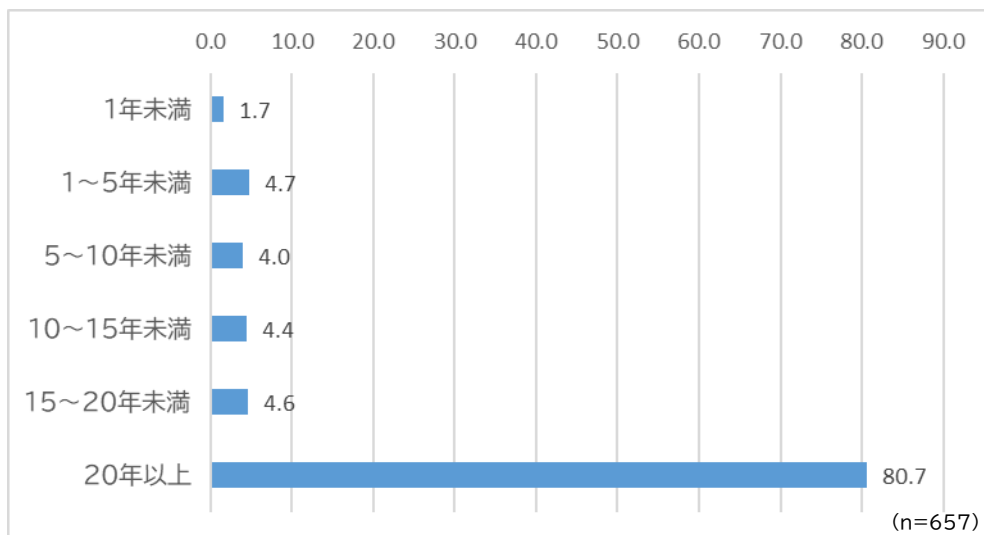
- ▶ 回答者の居住地区は、「平」が39.1%と約4割を占めて最も高く、次いで「小名浜」(21.0%)、「内郷」(10.8%)の順となっている。



(6) 居住年数

問6 あなたはいわき市に何年住んでいますか。(1つだけに○)

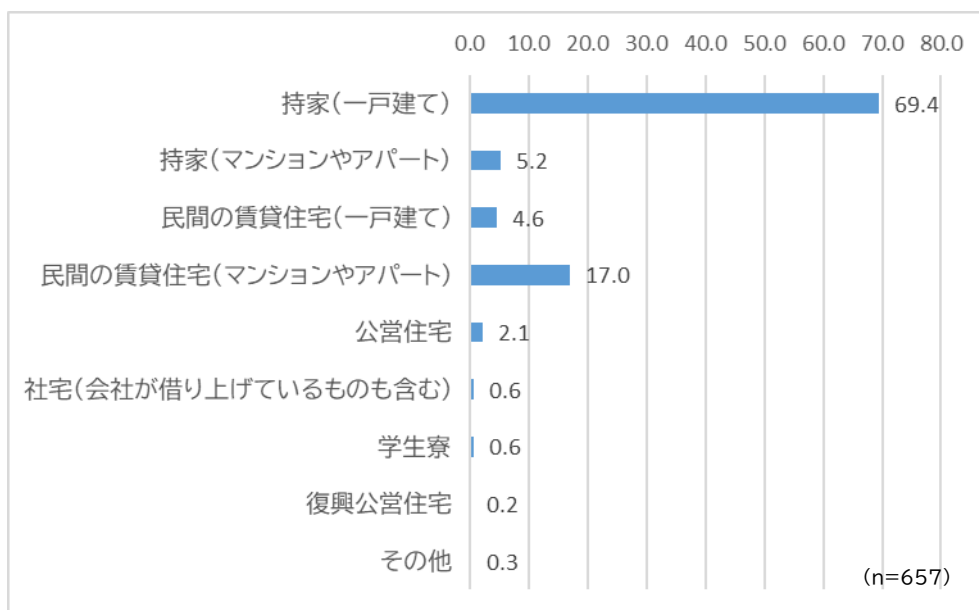
- ▶ 回答者の居住年数は、「20年以上」が80.7%と約8割を占めて最も高く、次いで「1～5年未満」(4.7%)、「15～20年未満」(4.6%)の順となっている。



(7) 住居の形態

問7 あなたの家は、次の中でどれですか。(1つだけに○)

- ▶ 回答者の住居の形態は、「持ち家（一戸建て）」が69.4%と約7割を占めて最も高く、次いで「民間の賃貸住宅（マンションやアパート）」(17.0%)、「持ち家（マンションやアパート）」(5.2%)の順となっている。

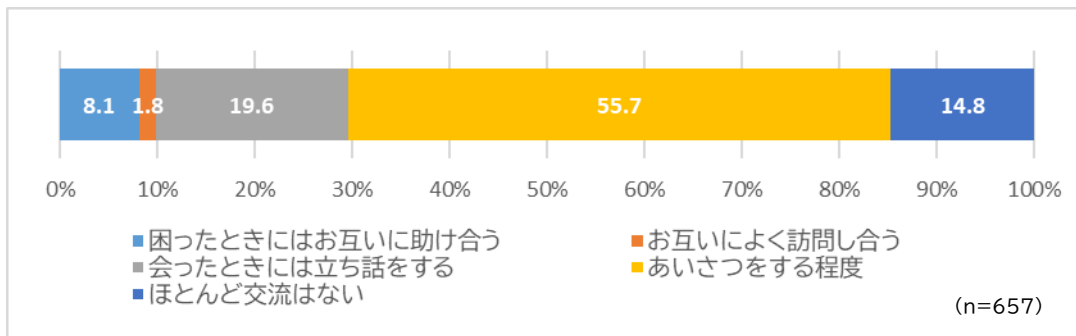


2 地域の交流について

(8) 近所の人との付き合いの程度

問8 あなたは、ご近所の人とどれくらい交流していますか。(1つだけに○)

- ▶ 近所の人との付き合いの程度は、「あいさつをする程度」が55.7%と5割以上を占めて最も高く、次いで「会ったときには立ち話をする」(19.6%)、「ほとんど交流はない」(14.8%)の順となっている。



- ▶ 年代別にみると、10歳代から60歳代では「あいさつをする程度」、70歳以上では「会ったときには立ち話をする」が最も高くなっている。
- ▶ また、概ね年代が下がるにつれて「ほとんど交流はない」が高くなる傾向がみられる。

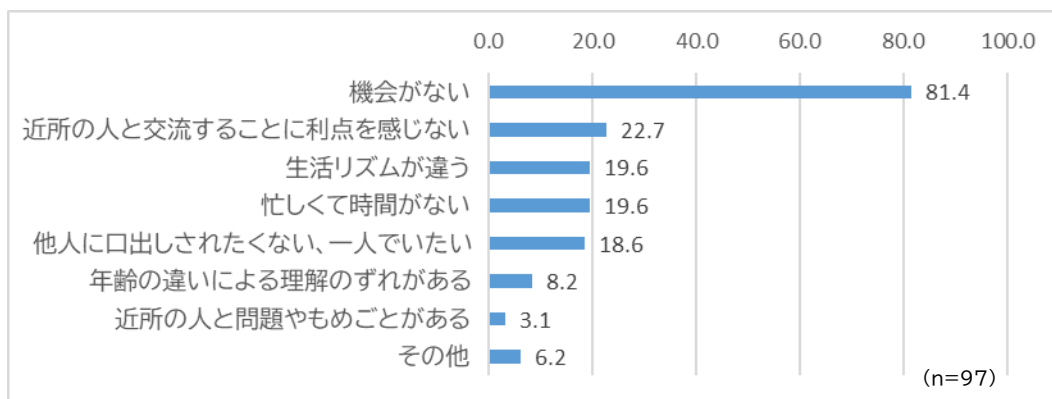
		調査数	困ったときにはお互いに助け合う	お互いによく訪問し合う	会ったときには立ち話をする	あいさつをする程度	ほとんど交流はない
全体		657	8.1	1.8	19.6	55.7	14.8
性別	男性	280	7.9	1.8	17.5	57.5	15.4
	女性	365	8.2	1.9	21.9	54.0	14.0
	答えたくない	12	8.3	0.0	0.0	66.7	25.0
年齢	10歳代	20	5.0	0.0	5.0	45.0	45.0
	20歳代	70	2.9	0.0	5.7	61.4	30.0
	30歳代	129	6.2	1.6	8.5	63.6	20.2
	40歳代	148	8.8	2.0	24.3	52.7	12.2
	50歳代	210	9.5	1.9	23.3	54.8	10.5
	60歳代	57	10.5	3.5	29.8	54.4	1.8
	70歳以上	23	13.0	4.3	47.8	34.8	0.0

(8-1) 近所の人と付き合いがない理由

※ 問8で「ほとんど交流はない」と回答した人のみ

問8-1 あなたは、なぜ近所の人とあまり付き合わないのですか。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 近所の人と付き合いがない理由は、「機会がない」が81.4%と8割以上を占めて最も高く、次いで「近所の人と交流することに利点を感じない」(22.7%)、「生活リズムが違う」(19.6%)、「忙しくて時間がない」(19.6%)の順となっている。



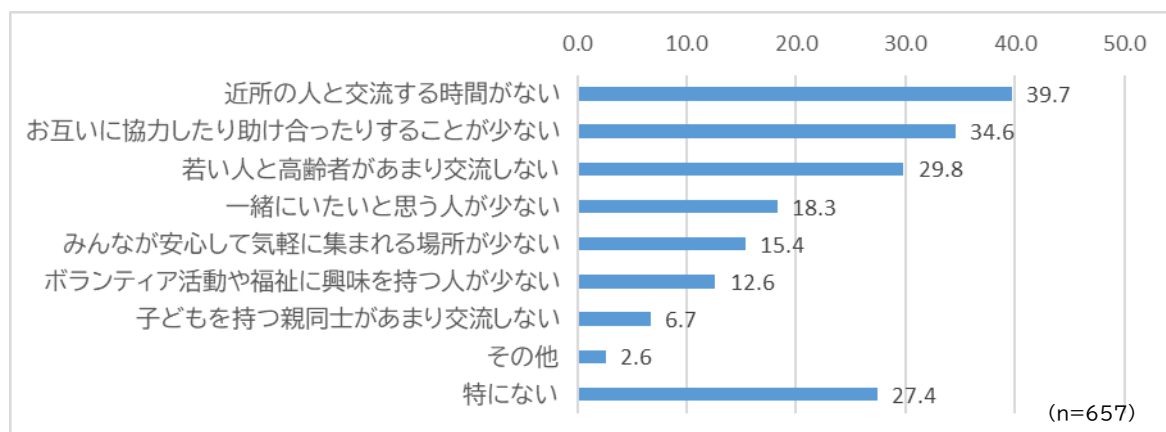
- ▶ 性別にみると、女性は「生活リズムが違う」が27.5%と男性(11.6%)に比べて、15.9ポイント高くなっている。
- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「機会がない」が最も高くなっている。
- ▶ また、「忙しくて時間がない」は、40歳代が33.3%、30歳代が30.8%とその他の年代に比べて高くなっている。

		調査数	機会がない	近所の人と交流することに利点を感じない	生活リズムが違う	忙しくて時間がない	他人に口出しされたくない、一人でいたい	年齢の違いによる理解のずれがある	近所の人と問題やめごとがある	その他
全体		97	81.4	22.7	19.6	19.6	18.6	8.2	3.1	6.2
性別	男性	43	88.4	16.3	11.6	18.6	16.3	0.0	0.0	4.7
	女性	51	76.5	25.5	27.5	19.6	19.6	13.7	5.9	7.8
	答えたくない	3	66.7	66.7	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
年齢	10歳代	9	88.9	11.1	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1
	20歳代	21	81.0	28.6	4.8	9.5	19.0	9.5	0.0	0.0
	30歳代	26	84.6	19.2	30.8	30.8	23.1	11.5	7.7	15.4
	40歳代	18	77.8	27.8	16.7	33.3	16.7	11.1	5.6	0.0
	50歳代	22	77.3	22.7	22.7	9.1	18.2	4.5	0.0	4.5
	60歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(9) 近所の人との付き合いで気になること

問9 あなたが毎日の生活で、近所の人との交流について、気になることは何ですか。(3つまで○)

- ▶ 近所の人との付き合いで気になることは、「近所の人と交流する時間がない」が39.7%と最も高く、次いで「お互いに協力したり助け合ったりすることが少ない」(34.6%)、「若い人と高齢者があまり交流しない」(29.8%)の順となっている。



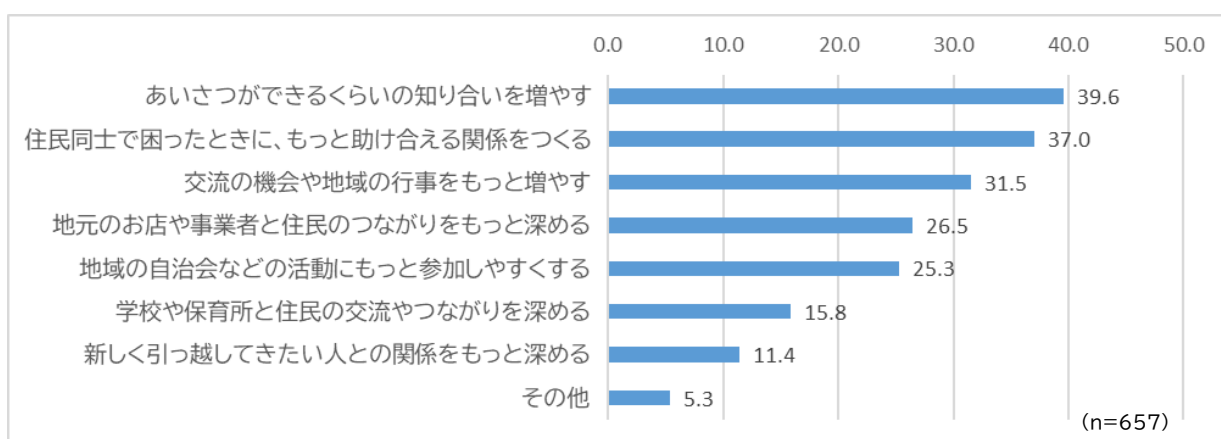
- ▶ 年代別にみると、30歳代から60歳代では「近所の人と交流する時間がない」、70歳以上では「お互いに協力したり助け合ったりすることが少ない」が最も高くなっている。
- ▶ また、概ね年代が下がるにつれて「特にない」が高くなる傾向がみられ、10歳代・20歳代では最も高くなっている。

		調査数	近所の人と交流する時間がない	お互いに協力したり助け合ったりすることが少ない	若い人と高齢者があまり交流しない	一緒にいたいと思う人が少ない	みんなが安心して気軽に集まれる場所が少ない	ボランティア活動や福祉に興味を持つ人が少ない	子どもを持つ親同士があまり交流しない	その他	特にない
全体		657	39.7	34.6	29.8	18.3	15.4	12.6	6.7	2.6	27.4
性別	男性	280	39.3	39.3	31.4	18.9	14.6	13.6	5.0	2.1	28.2
	女性	365	40.3	30.7	27.9	17.5	15.9	11.8	8.2	3.0	27.4
	答えたくない	12	33.3	41.7	50.0	25.0	16.7	16.7	0.0	0.0	8.3
年齢	10歳代	20	20.0	15.0	20.0	10.0	10.0	0.0	5.0	10.0	50.0
	20歳代	70	31.4	20.0	17.1	21.4	18.6	10.0	2.9	1.4	38.6
	30歳代	129	34.9	33.3	26.4	24.8	16.3	10.9	14.7	2.3	29.5
	40歳代	148	40.5	34.5	34.5	17.6	16.9	14.9	10.8	2.7	27.0
	50歳代	210	45.2	38.6	28.6	15.7	13.8	12.4	2.4	2.4	24.3
	60歳代	57	49.1	40.4	43.9	17.5	12.3	14.0	1.8	3.5	14.0
	70歳以上	23	30.4	52.2	43.5	8.7	17.4	26.1	0.0	0.0	26.1

(10) 住んでいる地域の活性化に必要なこと

問 10 あなたは、住んでいる場所のイベントや活動をもっと元気にするためには、何が必要だと思いますか。(3つまで○)

- ▶ 住んでいる地域の活性化に必要なことは、「あいさつができるくらいの知り合いを増やす」が39.6%と最も高く、次いで「住民同士で困ったときに、もっと助け合える関係をつくる」(37.0%)、「交流の機会や地域の行事をもっと増やす」(31.5%)の順となっている。



- ▶ 年代別にみると、10歳代から30歳代・60歳代では「あいさつができるくらいの知り合いを増やす」、40歳代・50歳代・70歳以上では「住民同士で困ったときに、もっと助け合える関係をつくる」が最も高くなっている。

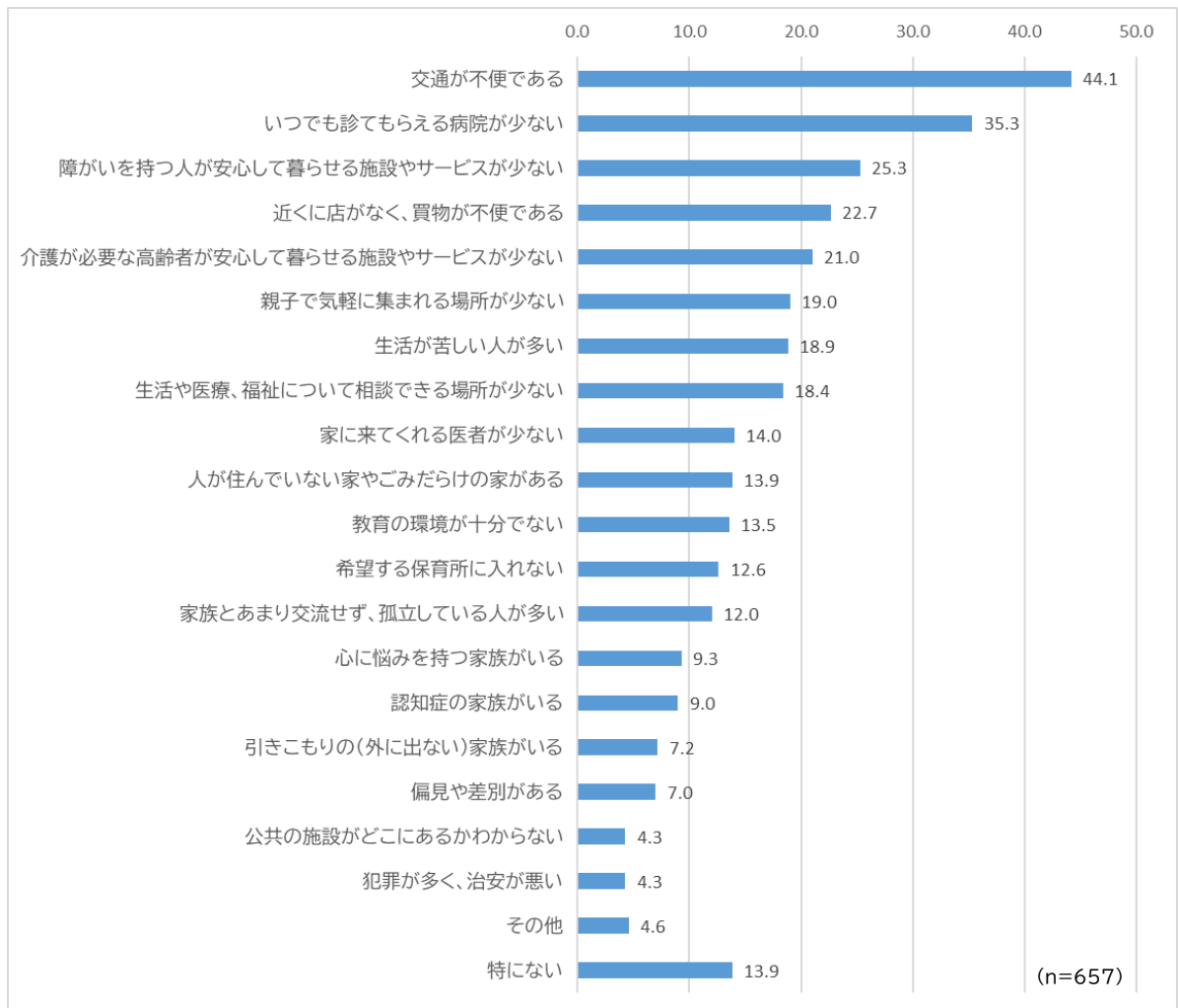
		調査数	あいさつができるくらいの知り合いを増やす	住民同士で困ったときに、もっと助け合える関係をつくる	交流の機会や地域の行事をもっと増やす	地元のお店や事業者と住民のつながりをもっと深める	地域の自治会などの活動にもっと参加しやすくする	学校や保育所と住民の交流やつながりを深める	新しく引っ越してきたい人との関係をもっと深める	その他
全体		657	39.6	37.0	31.5	26.5	25.3	15.8	11.4	5.3
性別	男性	280	40.0	37.5	30.0	27.5	25.0	16.4	15.0	7.5
	女性	365	39.2	37.3	32.3	25.8	25.2	15.9	7.9	3.3
	答えたくない	12	41.7	16.7	41.7	25.0	33.3	0.0	33.3	16.7
年齢	10歳代	20	45.0	35.0	30.0	20.0	10.0	20.0	10.0	5.0
	20歳代	70	45.7	32.9	32.9	34.3	15.7	17.1	14.3	4.3
	30歳代	129	40.3	25.6	31.8	27.1	22.5	22.5	12.4	7.0
	40歳代	148	32.4	33.1	32.4	28.4	24.3	23.0	9.5	6.8
	50歳代	210	39.5	45.7	27.1	25.7	30.5	10.5	11.0	3.8
	60歳代	57	43.9	38.6	43.9	22.8	24.6	3.5	12.3	1.8
	70歳以上	23	47.8	56.5	30.4	8.7	43.5	4.3	13.0	13.0

3 地域での暮らしについて

(11) 地域での困りごと

問 11 あなたが住んでいる場所で、どんなことで困っている人がいると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 地域での困りごとは、「交通が不便である」が44.1%と最も高く、次いで「いつでも診てもらえる病院が少ない」(35.3%)、「障がいを持つ人が安心して暮らすための施設やサービスが少ない」(25.3%)、「近くに店がなく、買物が不便である」(22.7%)の順となっている。



【その他の意見】

- ・ あまり交流がないため、どのような困りごとが発生しているのかわからない状況。
- ・ 街路の草刈りや山林の樹木の間伐を行う人が不足している。
- ・ 公営住宅は入居者が少なく、管理費など入居者負担が大きい。また高齢者ばかりで若い入居者がいない。
- ・ 近所のアパートに留学生や外国人就労者、ちいさい子どもがいる外国人の家族が増えてきたが地域との交流がない。
- ・ 後継ぎ問題・空き家問題。

- ▶ 性別にみると、女性は「交通が不便である」が 49.0%と男性 (37.1%) に比べて、11.9 ポイント高く、また、「いつでも診てもらえる病院が少ない」が 41.4%と男性 (27.1%) に比べて、14.3 ポイント高くなっている。
- ▶ 年代別にみると、40 歳代では「いつでも診てもらえる病院が少ない」が 45.9%と最も高くなっている。
- ▶ また、「特にない」は、10 歳代が 35.0%、20 歳代が 28.6%とその他の年代に比べて高くなっている。

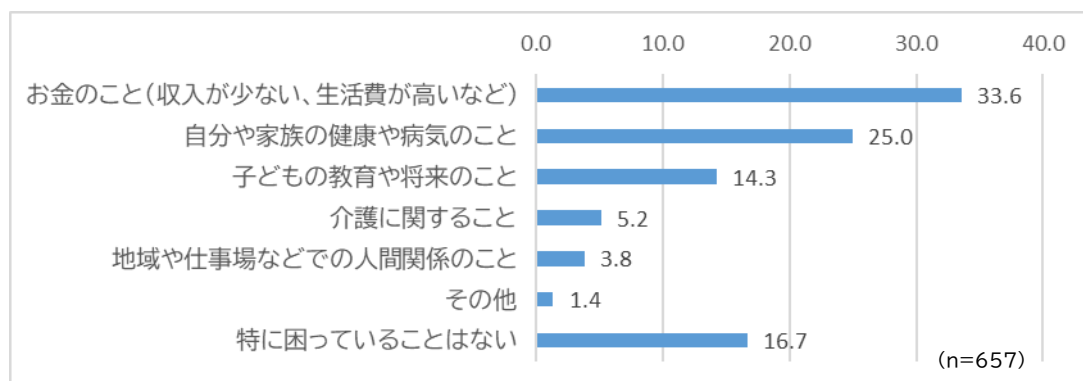
		調査数	交通が不便である	いつでも診てもらえる病院が少ない	障がいを持つ人が安心して暮らせる施設やサービスが少ない	近くにある店がなく、買物が不便である	介護が必要な高齢者が安心して暮らせる施設やサービスが少ない	親子で気軽に集まれる場所が少ない	生活が苦しい人が多い	生活や医療、福祉について相談できる場所が少ない	家に来てくれる医者が少ない	人が住んでいない家やごみだらけの家がある	教育の環境が十分でない
全体		657	44.1	35.3	25.3	22.7	21.0	19.0	18.9	18.4	14.0	13.9	13.5
性別	男性	280	37.1	27.1	18.9	22.1	20.4	17.9	20.0	15.7	10.7	13.9	13.9
	女性	365	49.0	41.4	29.9	22.7	21.4	19.7	17.0	20.8	16.2	14.2	12.9
答えたくない		12	58.3	41.7	33.3	33.3	25.0	25.0	50.0	8.3	25.0	0.0	25.0
年齢	10歳代	20	35.0	25.0	20.0	10.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	5.0	5.0
	20歳代	70	42.9	25.7	20.0	17.1	12.9	12.9	17.1	17.1	8.6	7.1	14.3
	30歳代	129	43.4	34.9	27.1	18.6	13.2	31.8	28.7	21.7	8.5	6.2	17.8
	40歳代	148	39.2	45.9	26.4	20.9	21.6	21.6	18.2	14.9	12.8	18.9	14.9
	50歳代	210	47.1	31.9	22.4	24.8	25.2	11.0	16.2	17.1	19.0	16.2	10.0
	60歳代	57	57.9	38.6	35.1	38.6	29.8	21.1	17.5	35.1	21.1	21.1	15.8
	70歳以上	23	30.4	30.4	30.4	26.1	34.8	26.1	17.4	4.3	8.7	13.0	13.0

		調査数	希望する保育所に入れない	家族とあまり交流せず、孤立している人が多い	心に悩みを持つ家族がいる	認知症の家族がいる	引きこもりの（外に出ない）家族がいる	偏見や差別がある	公共の施設がどこにあるかわからない	犯罪が多く、治安が悪い	その他	特にない
全体		657	12.6	12.0	9.3	9.0	7.2	7.0	4.3	4.3	4.6	13.9
性別	男性	280	11.8	13.6	7.5	10.7	5.7	6.8	3.9	5.0	3.9	18.2
	女性	365	13.2	11.0	10.1	7.1	7.4	7.1	4.4	3.8	5.2	11.0
答えたくない		12	16.7	8.3	25.0	25.0	33.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代	20	5.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	10.0	5.0	35.0
	20歳代	70	11.4	4.3	11.4	5.7	5.7	2.9	2.9	0.0	2.9	28.6
	30歳代	129	24.0	11.6	11.6	6.2	9.3	11.6	8.5	7.0	6.2	10.1
	40歳代	148	10.1	14.9	8.1	10.8	7.4	6.1	3.4	4.7	4.7	10.1
	50歳代	210	8.6	11.0	10.0	9.5	6.7	7.1	2.4	3.8	4.3	13.8
	60歳代	57	14.0	17.5	8.8	12.3	7.0	5.3	7.0	3.5	5.3	7.0
	70歳以上	23	8.7	17.4	0.0	17.4	8.7	8.7	0.0	0.0	0.0	13.0

(12) 自分自身の困りごと

問 12 あなたが、今、毎日の生活で一番困っていることや心配なことは何ですか。
(1つだけに○)

- ▶ 自分自身の困りごとは、「お金のこと」が 33.6%と最も高く、次いで「自分や家族の健康や病気のこと」(25.0%)、「子どもの教育や将来のこと」(14.3%)の順となっている。



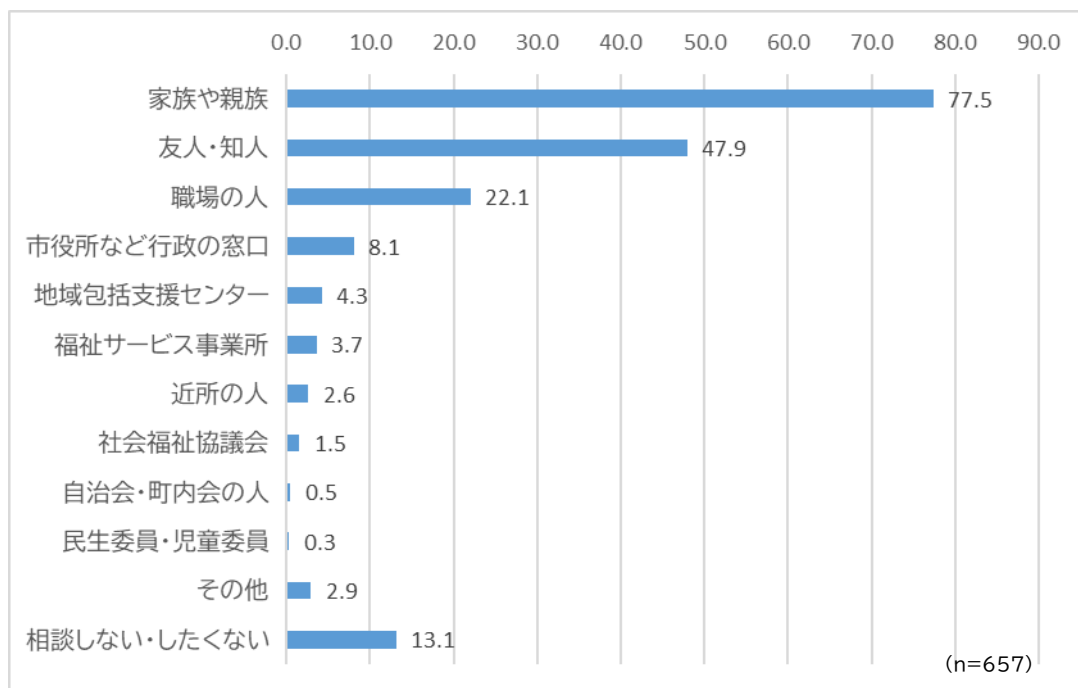
- ▶ 年代別にみると、10歳代から30歳代では「お金のこと」、40歳代では「子どもの教育や将来のこと」、50歳代から70歳以上では「自分や家族の健康や病気のこと」が最も高くなっている。
- ▶ また、「特に困っていることはない」は、70歳以上が 30.4%、20歳代が 22.9%とその他の年代に比べてやや高くなっている。

		調査数	お金の生活費が(収入が少なく生活費が高いなど)	自分や家族の健康や病気のこと	子どもの教育や将来のこと	介護に関すること	地域や職場などでの人間関係のこと	その他	特に困っていることはない
全体		657	33.6	25.0	14.3	5.2	3.8	1.4	16.7
性別	男性	280	31.8	23.6	15.7	4.3	5.0	1.1	18.6
	女性	365	33.7	26.8	13.4	6.0	2.7	1.6	15.6
	答えたくない	12	75.0	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3
年齢	10歳代	20	40.0	30.0	0.0	0.0	10.0	5.0	15.0
	20歳代	70	52.9	11.4	4.3	4.3	1.4	2.9	22.9
	30歳代	129	46.5	22.5	16.3	1.6	2.3	0.8	10.1
	40歳代	148	28.4	18.2	29.7	3.4	3.4	1.4	15.5
	50歳代	210	27.6	30.5	9.0	8.1	3.8	1.0	20.0
	60歳代	57	21.1	38.6	10.5	8.8	8.8	1.8	10.5
	70歳以上	23	17.4	34.8	4.3	8.7	4.3	0.0	30.4

(13) 困りごとの相談先

問 13 あなたは、毎日の生活で困っていることを、誰に相談しますか。またはどこに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 困りごとの相談先は、「家族や親族」が77.5%と最も高く、次いで「友人・知人」(47.9%)、「職場の人」(22.1%)の順となっている。



- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「家族や親族」が最も高く、次いで「友人・知人」となっている。

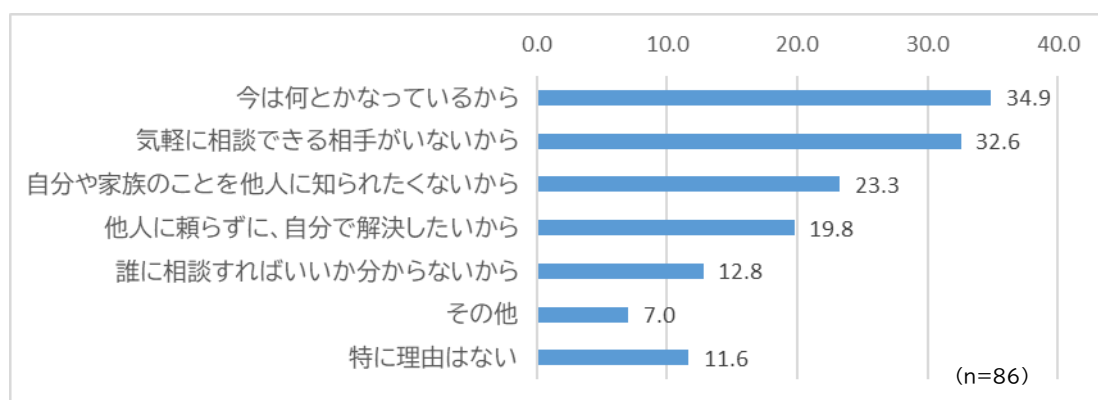
		調査数	家族や親族	友人・知人	職場の人	市役所など行政の窓口	地域包括支援センター	福祉サービス事業所	近所の人	社会福祉協議会	自治会・町内会の人	民生委員・児童委員	その他	相談しない・したくない
全体		657	77.5	47.9	22.1	8.1	4.3	3.7	2.6	1.5	0.5	0.3	2.9	13.1
性別	男性	280	71.8	42.1	19.3	9.6	5.4	2.5	1.8	2.5	0.4	0.7	3.9	14.3
	女性	365	82.2	53.2	24.7	6.8	3.6	4.7	3.3	0.8	0.5	0.0	2.2	11.5
答えたくない		12	66.7	25.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
年齢	10歳代	20	80.0	50.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0
	20歳代	70	77.1	60.0	18.6	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	15.7
	30歳代	129	77.5	46.5	25.6	7.0	1.6	1.6	0.0	0.8	0.0	0.0	2.3	14.7
	40歳代	148	81.1	53.4	25.7	4.1	4.1	5.4	3.4	2.0	0.7	0.7	2.7	11.5
	50歳代	210	77.6	41.4	20.5	11.9	4.8	3.3	2.9	2.4	0.0	0.0	3.3	12.4
	60歳代	57	68.4	49.1	24.6	10.5	7.0	7.0	5.3	1.8	3.5	0.0	0.0	14.0
	70歳以上	23	73.9	39.1	13.0	26.1	26.1	4.3	8.7	0.0	0.0	4.3	4.3	13.0

(13-1) 困りごとを相談しない理由

※ 問 13 で「相談しない・したくない」と回答した人のみ

問 13-1 あなたが相談しない、または相談したくない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 困りごとを相談しない理由は、「今はなんとかなっているから」が 34.9%と最も高く、次いで「気軽に相談できる相手がいないから」(32.6%)、「自分や家族のことを他人に知られたくないから」(23.3%)の順となっている。



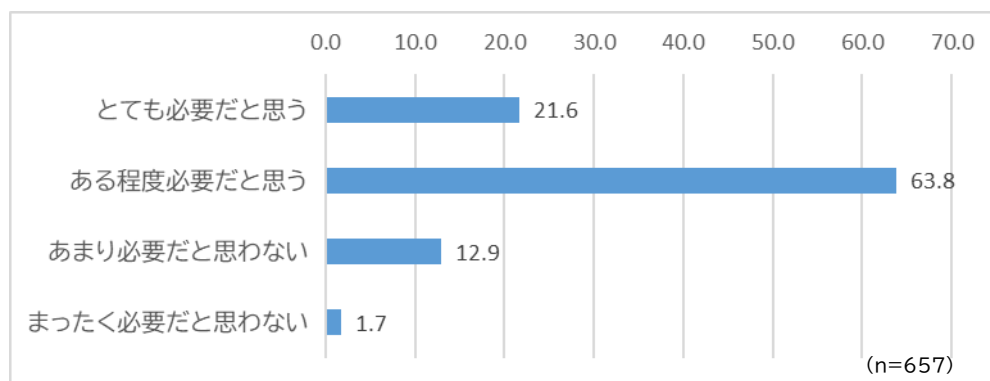
- ▶ 性別にみると、男性は「気軽に相談できる相手がいないから」が 40.0%と女性(26.2%)に比べて、13.8 ポイント高くなっている。

		調査数	今は何とかなっているから	気軽に相談できる相手がいないから	自分や家族のことを他人に知られたくないから	他人に頼らずに、自分で解決したいから	誰に相談すればいいかわからないから	その他	特に理由はない
全体		86	34.9	32.6	23.3	19.8	12.8	7.0	11.6
性別	男性	40	27.5	40.0	22.5	25.0	10.0	5.0	15.0
	女性	42	45.2	26.2	21.4	16.7	14.3	9.5	9.5
	答えたくない	4	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0
年齢	10歳代	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	11	27.3	45.5	9.1	9.1	18.2	9.1	18.2
	30歳代	19	26.3	52.6	31.6	15.8	26.3	0.0	10.5
	40歳代	17	23.5	29.4	11.8	17.6	0.0	11.8	17.6
	50歳代	26	50.0	26.9	30.8	26.9	15.4	7.7	3.8
	60歳代	8	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	12.5	12.5
	70歳以上	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3

(14) 近所の人たちが助け合うことの必要性

問 14 あなたは、毎日の生活で、近所の人たちが助け合うことは大切だと思いますか。どう感じますか。(1 つだけに○)

- ▶ 近所の人たちが助け合うことの必要性は、「ある程度必要だと思う」が 63.8%と最も高く、「とても必要だと思う」(21.6%) と合わせると、「必要だと思う」人が8割以上を占めている。



- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「ある程度必要だと思う」が最も高くなっている。
- ▶ また、「あまり必要だと思わない」は、20 歳代が 24.3%、30 歳代が 20.2%とその他の年代に比べてやや高くなっている。

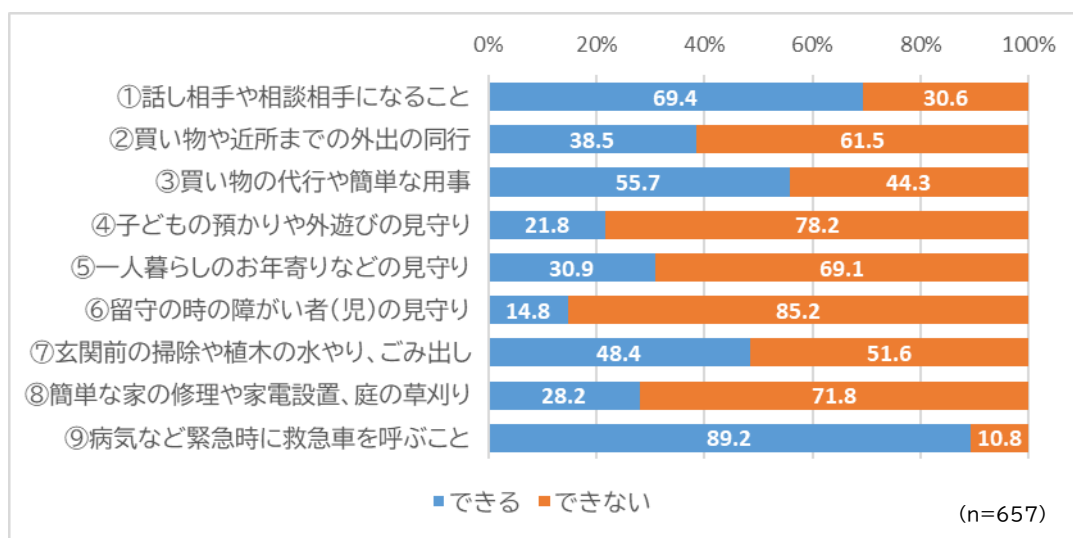
		調査数	とても必要だと思う	ある程度必要だと思う	あまり必要だと思わない	まったく必要だと思わない
全体		657	21.6	63.8	12.9	1.7
性別	男性	280	22.9	64.3	11.8	1.1
	女性	365	21.1	63.6	13.7	1.6
	答えたくない	12	8.3	58.3	16.7	16.7
年齢	10歳代	20	45.0	45.0	5.0	5.0
	20歳代	70	15.7	54.3	24.3	5.7
	30歳代	129	17.1	62.0	20.2	0.8
	40歳代	148	20.3	67.6	11.5	0.7
	50歳代	210	23.8	64.8	10.0	1.4
	60歳代	57	24.6	71.9	1.8	1.8
	70歳以上	23	26.1	65.2	8.7	0.0

(15) 近所の人に手助けできること、手助けしてほしいこと

問 15 あなたは、次のようなことについて、近所の人を助けることができますか。また、助けてもらいたいですか。①～⑩のそれぞれについて、教えてください。(あてはまるものすべてに○)

(1) 手助けできること

- ▶ 近所の人に手助けできることは、「⑨病気など緊急時に救急車を呼ぶこと」が89.2%と最も高く、次いで「①話し相手や相談相手になること」(69.4%)、「③買物の代行や簡単な用事(手紙の投函、荷物の受取など)」(55.7%)の順となっている。



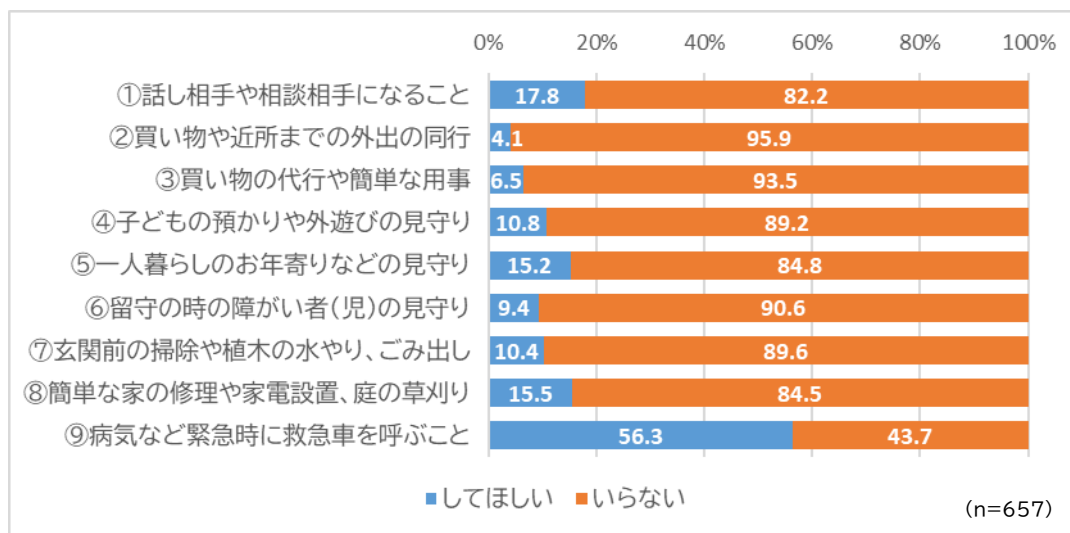
- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「⑨病気など緊急時に救急車を呼ぶこと」が最も高くなっている。

《手助けできると回答した人の割合》

		調査数	①話し相手や相談相手になること	②買い物や近所までの外出の同行	③買物の代行や簡単な用事	④子どもの預かりや外遊びの見守り	⑤一人暮らしのお年寄りなどの見守り	⑥留守の時の障がい者(児)の見守り	⑦玄関前の掃除や植木の水やり、ごみ出し	⑧簡単な家の修理や家電設置、庭の草刈り	⑨病気など緊急時に救急車を呼ぶこと
全体		657	69.4	38.5	55.7	21.8	30.9	14.8	48.4	28.2	89.2
性別	男性	280	69.3	38.9	57.1	20.4	29.3	13.9	51.4	42.9	88.2
	女性	365	69.9	38.1	55.6	23.0	31.8	15.3	46.3	17.0	90.7
	答えたくない	12	58.3	41.7	25.0	16.7	41.7	16.7	41.7	25.0	66.7
年齢	10歳代	20	65.0	60.0	70.0	35.0	35.0	30.0	55.0	50.0	85.0
	20歳代	70	68.6	40.0	48.6	34.3	31.4	21.4	48.6	30.0	85.7
	30歳代	129	71.3	34.1	48.1	28.7	28.7	14.7	42.6	30.2	90.7
	40歳代	148	73.6	41.2	60.1	23.6	27.0	16.9	48.0	28.4	89.2
	50歳代	210	66.7	34.3	55.2	13.3	31.4	10.5	46.7	24.8	88.6
	60歳代	57	68.4	42.1	61.4	12.3	35.1	12.3	59.6	24.6	96.5
	70歳以上	23	65.2	52.2	69.6	21.7	47.8	13.0	65.2	30.4	82.6

(2) 手助けしてほしいこと

- ▶ 近所の人に手助けしてほしいことは、「⑨病気など緊急時に救急車を呼ぶこと」が56.3%と最も高く、次いで「①話し相手や相談相手になること」(17.8%)、「⑧簡単な家の修理や家具の移動、家電製品の設置、庭の草刈り」(15.5%)の順となっている。



- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「⑨病気など緊急時に救急車を呼ぶこと」が最も高くなっている。
- ▶ また、60歳代では「⑤一人暮らしのお年寄りや留守の時のお年寄りの見守り」や「⑧簡単な家の修理や家具の移動、家電製品の設置、庭の草刈り」が他の年代に比べて高くなっている。

《手助けしてほしいと回答した人の割合》

		調査数	①話し相手や相談相手になること	②買い物や近所までの外出の同行	③買い物の代行や簡単な用事	④子どもの預かりや外遊びの見守り	⑤一人暮らしのお年寄りの見守り	⑥留守の時の障がい者(児)の見守り	⑦玄関前の掃除や植木の水やり、ごみ出し	⑧簡単な家の修理や家電設置、庭の草刈り	⑨病気など緊急時に救急車を呼ぶこと
全体		657	17.8	4.1	6.5	10.8	15.2	9.4	10.4	15.5	56.3
性別	男性	280	20.0	5.0	7.1	10.7	16.1	8.9	10.0	13.2	52.5
	女性	365	15.9	3.3	6.3	11.2	14.8	9.9	10.7	17.3	59.5
	答えたくない	12	25.0	8.3	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	16.7	50.0
年齢	10歳代	20	45.0	15.0	15.0	10.0	10.0	15.0	15.0	20.0	65.0
	20歳代	70	20.0	5.7	8.6	12.9	12.9	8.6	11.4	17.1	62.9
	30歳代	129	23.3	5.4	11.6	19.4	12.4	10.1	15.5	17.1	61.2
	40歳代	148	17.6	4.1	3.4	13.5	14.9	6.8	6.8	8.8	46.6
	50歳代	210	12.4	1.9	5.2	4.3	15.7	8.6	7.1	14.8	56.2
	60歳代	57	14.0	3.5	3.5	7.0	28.1	19.3	19.3	31.6	66.7
	70歳以上	23	17.4	4.3	4.3	8.7	8.7	4.3	4.3	8.7	39.1

⑩その他、手助けできることや手助けしてほしいこと（自由記述）

【手助けできること】

- ・ 小中学生が登下校する時間帯の見守り
- ・ 学童や習い事などへの子どもの送迎
- ・ 採れすぎた野菜等のおすそ分け
- ・ 災害などの非常事態の際の手助け

【手助けしてほしいこと】

- ・ 学童や習い事などへの子どもの送迎
- ・ 病院の受診などの必要なところまでの移動の支援
- ・ 電気、ガス、水道や家に関することで、不具合が出た時の対応
- ・ 災害などの非常事態の際の手助け

【その他の意見】

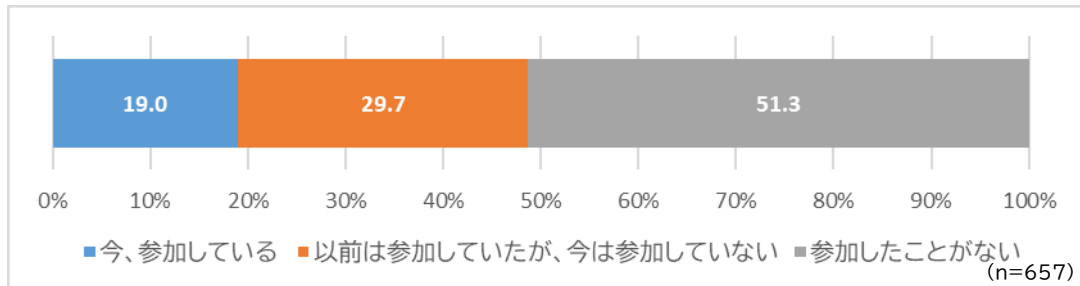
- ・ 公共機関による手助けが必要なもの(子供や障害児、高齢者の見守り等)については、新たなトラブルや怪我に繋がる為、互いの手助けはいらないと感じる。障がいや子供の特性の理解や、困っている時に「大丈夫ですか？」と声を掛けあえる関係がベストだと感じる。
- ・ 日頃の近所の支え合いは、頼む方も頼まれる方も心身の負担があり、民間サービスを費用負担して利用できることが望ましいと思う。
- ・ 関係の無い人と関わるのは、それなりに事前の付き合いが必要かと思う。よほどの事が無いと、下手に手を出して問題が起きた時の責任の所在が不安で手を出せない。
- ・ 他市ではゴミ出しボランティア制度があり、市が制度設計して、ボランティアをしやすい、受けやすい環境を整備しています。ゴミ出しにかかわらず、いわき市もボランティアをしてもいい人、してもらいたい人が一定数いると思います。市の制度があれば、支援の輪が広がるのではと思います。住民支えあいという観点での制度設計をお願いします。

4 地域でのボランティアなどの活動について

(16) 地域活動への参加状況

問 16 あなたは、地域活動（自治会、地域行事、防災活動など）やボランティア活動に参加したことがありますか。（1 つだけに○）

- ▶ 地域活動への参加状況は、「参加したことがない」が 51.3%と 5 割以上を占めて最も高く、「以前は参加していたが、今は参加していない」（29.7%）を合わせた「今、参加していない」人は約 8 割となっている。



- ▶ 性別にみると、女性は「参加したことがない」が 58.4%と男性（40.7%）に比べて、17.7 ポイント高くなっている。
- ▶ 年代別にみると、70 歳以上では「以前は参加していたが、今は参加していない」、その他の年代では「参加したことがない」が最も高くなっている。

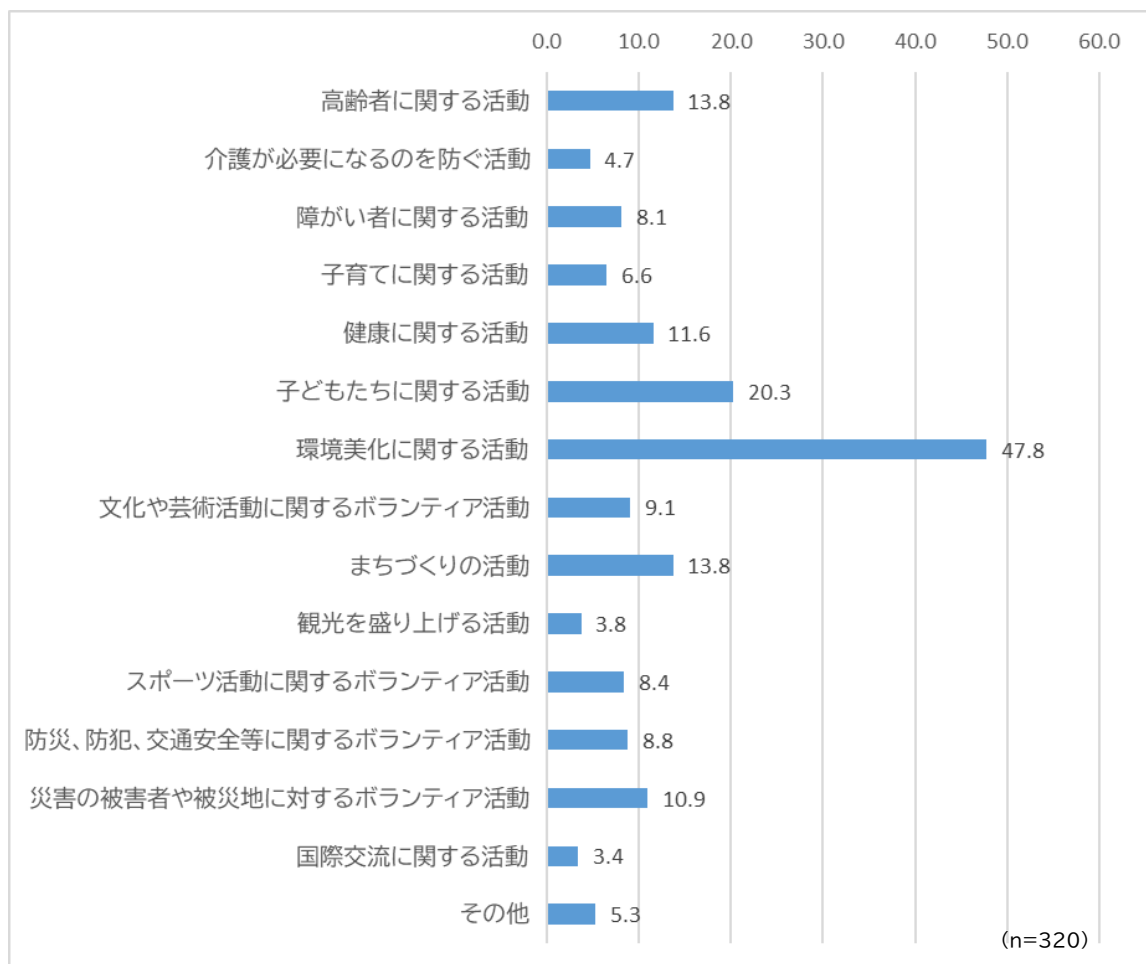
		調査数	今、参加している	以前は参加していたが、今は参加していない	参加したことがない
全体		657	19.0	29.7	51.3
性別	男性	280	26.8	32.5	40.7
	女性	365	13.2	28.5	58.4
	答えたくない	12	16.7	0.0	83.3
年齢	10歳代	20	0.0	40.0	60.0
	20歳代	70	8.6	27.1	64.3
	30歳代	129	11.6	24.8	63.6
	40歳代	148	29.7	19.6	50.7
	50歳代	210	20.5	35.7	43.8
	60歳代	57	15.8	36.8	47.4
	70歳以上	23	34.8	47.8	17.4

(16-1) 参加している（していた）活動の内容

※ 問 16 で「今、参加している」または「以前は参加していたが、今は参加していない」と回答した人のみ

問 16-1 あなたが参加している（していた）地域活動やボランティア活動を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- ▶ 参加している（していた）活動の内容は、「環境美化に関する活動（美化運動、リサイクル運動など）」が 47.8%と最も高く、次いで「子どもたちに関する活動（悩み相談、子ども会活動支援など）」(20.3%)、「高齢者に関する活動（見守り、クラブ活動の協力、施設訪問など）」(13.8%)、「まちづくりの活動」(13.8%) の順となっている。



- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「環境美化に関する活動」が最も高くなっている。
- ▶ また、30 歳代から 60 歳代では「子どもたちに関する活動」、70 歳以上では「高齢者に関する活動」や「まちづくりの活動」がその他の年代に比べてやや高くなっている。

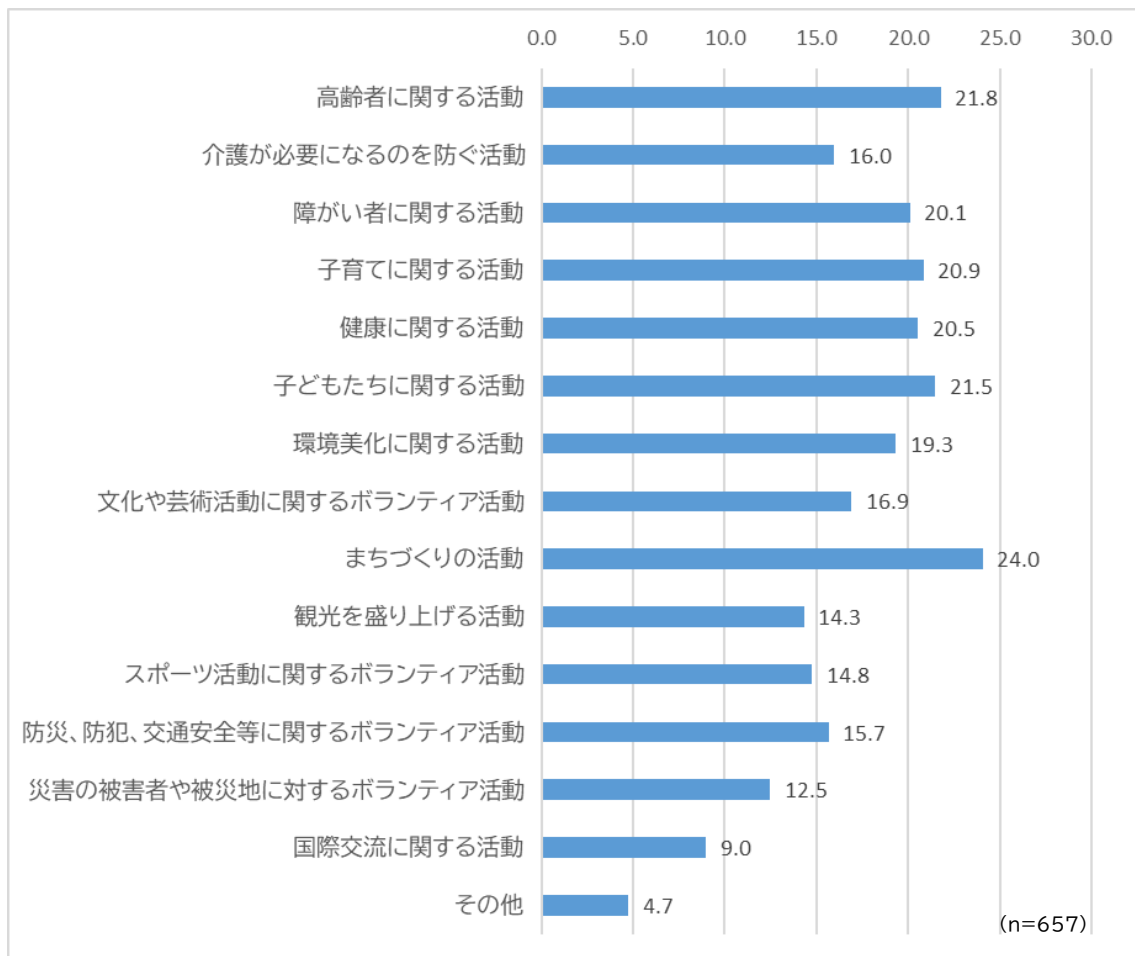
		調査数	高齢者に関する活動	介護が必要になるのを防ぐ活動	障がい者に関する活動	子育てに関する活動	健康に関する活動	子どもたちに関する活動	環境美化に関する活動	文化や芸術活動に関するボランティア活動
	全体	320	13.8	4.7	8.1	6.6	11.6	20.3	47.8	9.1
性別	男性	166	13.3	3.6	7.2	2.4	11.4	16.3	54.2	9.6
	女性	152	14.5	5.9	8.6	11.2	11.8	25.0	40.8	7.9
	答えたくない	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
年齢	10歳代	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代	25	28.0	4.0	20.0	4.0	12.0	12.0	64.0	12.0
	30歳代	47	8.5	6.4	12.8	10.6	17.0	23.4	53.2	8.5
	40歳代	73	11.0	5.5	6.8	6.8	8.2	24.7	35.6	8.2
	50歳代	118	11.9	2.5	4.2	5.9	10.2	21.2	43.2	9.3
	60歳代	30	16.7	6.7	10.0	10.0	20.0	23.3	56.7	10.0
	70歳以上	19	31.6	10.5	10.5	0.0	10.5	5.3	73.7	10.5

		調査数	まちづくりの活動	観光を盛り上げる活動	スポーツ活動に関するボランティア活動	防災、防犯、交通安全等に関するボランティア活動	災害の被害者や被災地に対するボランティア活動	国際交流に関する活動	その他
	全体	320	13.8	3.8	8.4	8.8	10.9	3.4	5.3
性別	男性	166	15.7	4.2	10.8	10.8	11.4	3.6	5.4
	女性	152	11.8	3.3	5.3	6.6	10.5	3.3	5.3
	答えたくない	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代	8	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0
	20歳代	25	20.0	16.0	8.0	8.0	8.0	4.0	0.0
	30歳代	47	6.4	0.0	6.4	2.1	17.0	8.5	2.1
	40歳代	73	15.1	5.5	13.7	12.3	8.2	4.1	2.7
	50歳代	118	10.2	2.5	5.9	9.3	11.9	0.8	9.3
	60歳代	30	23.3	0.0	10.0	3.3	0.0	3.3	3.3
	70歳以上	19	31.6	0.0	5.3	21.1	26.3	5.3	0.0

(17) 興味がある活動の内容

問 17 あなたは、どんな活動に興味がありますか。今やっている活動や地域のことに関係なく、教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 興味がある活動の内容は、「まちづくりの活動」が 24.0%と最も高く、次いで「高齢者に関する活動」(21.8%)、「子どもたちに関する活動」(21.5%)、「子育てに関する活動(託児、子育てサークル支援など)」(20.9%)の順となっている。



- ▶ 性別にみると、男性は「まちづくりの活動」や「環境美化に関する活動」が高く、女性は「子育てに関する活動」や「子どもたちに関する活動」が高くなっている。
- ▶ 年代別にみると、10歳代・60歳代では「高齢者に関する活動」、20歳代・30歳代では「子育てに関する活動」、40歳代・50歳代では「まちづくりの活動」、70歳以上では「環境美化に関する活動」が最も高くなっている。

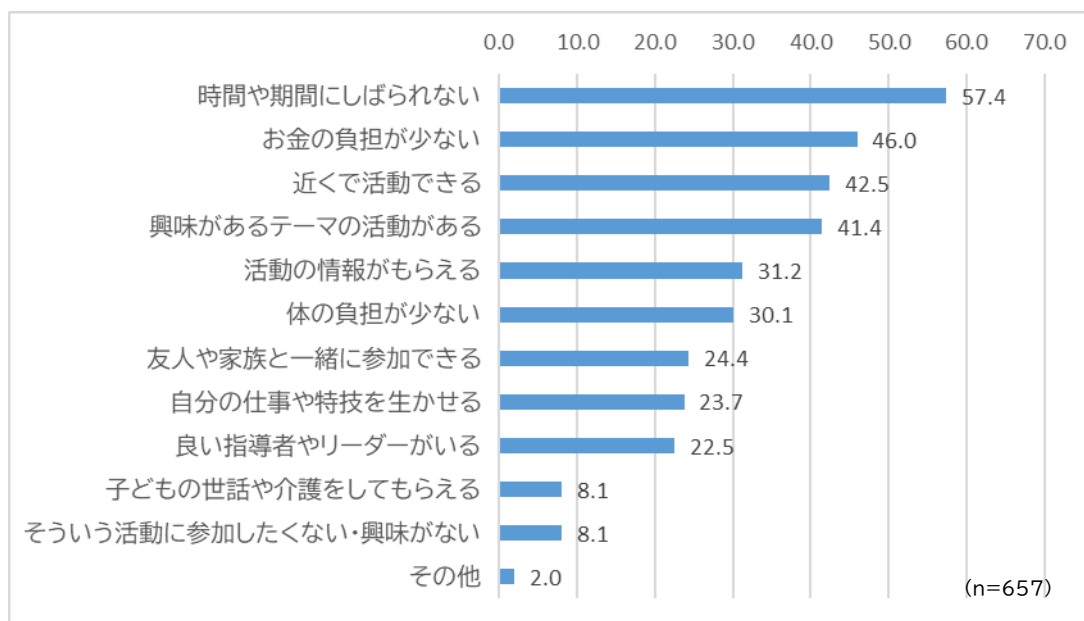
		調査数	高齢者に関する活動	介護が必要になるのを防ぐ活動	障がい者に関する活動	子育てに関する活動	健康に関する活動	子どもたちに関する活動	環境美化に関する活動	文化や芸術活動に関するボランティア活動
全体		657	21.8	16.0	20.1	20.9	20.5	21.5	19.3	16.9
性別	男性	280	18.9	12.5	14.3	16.1	17.1	16.1	27.1	16.1
	女性	365	24.1	18.6	24.4	24.9	23.3	25.8	13.4	17.5
	答えたくない	12	16.7	16.7	25.0	8.3	16.7	16.7	16.7	16.7
年齢	10歳代	20	30.0	25.0	10.0	20.0	25.0	25.0	15.0	10.0
	20歳代	70	15.7	15.7	24.3	31.4	28.6	31.4	17.1	20.0
	30歳代	129	17.1	12.4	18.6	31.8	23.3	31.0	19.4	11.6
	40歳代	148	23.6	14.9	15.5	21.6	12.8	18.9	10.1	13.5
	50歳代	210	19.0	11.4	22.4	13.3	21.4	14.8	23.3	18.6
	60歳代	57	38.6	31.6	28.1	15.8	24.6	17.5	22.8	26.3
	70歳以上	23	30.4	39.1	13.0	4.3	8.7	21.7	43.5	26.1

		調査数	まちづくりの活動	観光を盛り上げる活動	スポーツ活動に関するボランティア活動	防災、防犯、交通安全等に関するボランティア活動	災害の被害者や被災地に対するボランティア活動	国際交流に関する活動	その他
全体		657	24.0	14.3	14.8	15.7	12.5	9.0	4.7
性別	男性	280	30.7	14.6	21.4	21.4	12.5	8.2	5.0
	女性	365	18.9	13.7	9.3	10.4	12.3	9.0	4.4
	答えたくない	12	25.0	25.0	25.0	41.7	16.7	25.0	8.3
年齢	10歳代	20	20.0	20.0	25.0	5.0	10.0	10.0	5.0
	20歳代	70	14.3	18.6	17.1	8.6	10.0	8.6	7.1
	30歳代	129	20.2	17.1	11.6	13.2	10.9	9.3	5.4
	40歳代	148	29.1	11.5	18.9	15.5	12.2	13.5	5.4
	50歳代	210	26.2	12.4	12.9	17.1	13.3	8.1	4.3
	60歳代	57	21.1	19.3	12.3	22.8	17.5	1.8	1.8
	70歳以上	23	34.8	4.3	13.0	30.4	13.0	4.3	0.0

(18) 地域活動に参加しやすい条件

問 18 あなたは、どんな条件があれば、活動に参加しやすいですか。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 地域活動に参加しやすい条件は、「時間や期間にしばられない」が 57.4%と最も高く、次いで「お金の負担が少ない」(46.0%)、「近くで活動できる」(42.5%)、「興味があるテーマの活動がある」(41.4%) の順となっている。



- ▶ 年代別にみると、概ね年代が上がるにつれて「時間や期間にしばられない」や「近くで活動できる」が高くなる傾向がみられる。
- ▶ 一方で、概ね年代が下がるにつれて「お金の負担が少ない」が高くなる傾向がみられる。

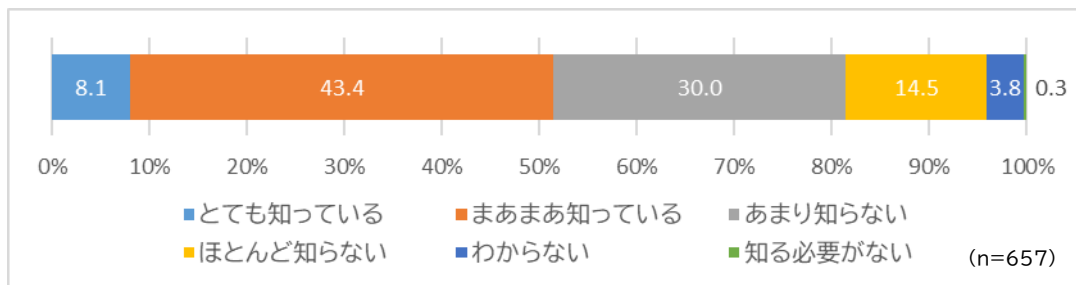
		調査数	時間や期間に しばられない	お金の負担が 少ない	近くで活動で きる	興味がある テーマの活動が ある	活動の情報が もらえる	体の負担が 少ない	友人や家族と 一緒に参加で きる	自分の仕事や 特技を生かせ る	良い指導者や リーダーがい る	子どもの世話 や介護をして もらえる	そういう活動 に参加したく ない・興味 がない	その他
全体		657	57.4	46.0	42.5	41.4	31.2	30.1	24.4	23.7	22.5	8.1	8.1	2.0
性別	男性	280	57.9	40.0	38.9	38.2	29.6	30.0	19.3	20.7	27.1	5.0	8.2	3.2
	女性	365	57.3	49.9	44.7	43.6	32.6	29.6	27.9	26.3	18.9	10.7	7.7	1.1
答えたくない		12	50.0	66.7	58.3	50.0	25.0	50.0	33.3	16.7	25.0	0.0	16.7	0.0
年齢	10歳代	20	35.0	55.0	35.0	50.0	20.0	25.0	45.0	15.0	5.0	5.0	5.0	5.0
	20歳代	70	35.7	54.3	35.7	47.1	41.4	14.3	31.4	10.0	14.3	4.3	15.7	1.4
	30歳代	129	51.9	47.3	32.6	38.8	34.9	29.5	26.4	23.3	19.4	14.7	11.6	0.8
	40歳代	148	60.1	46.6	37.2	39.2	25.7	23.6	18.9	27.7	22.3	8.8	6.8	2.7
	50歳代	210	66.2	45.2	48.1	42.4	30.5	36.2	23.3	25.2	27.1	6.7	6.7	2.4
	60歳代	57	64.9	40.4	56.1	40.4	29.8	38.6	28.1	31.6	33.3	5.3	3.5	1.8
70歳以上		23	56.5	21.7	73.9	39.1	34.8	52.2	8.7	17.4	13.0	0.0	0.0	0.0

5 福祉サービスの情報について

(19) 福祉サービスに関する情報の入手状況

問 19 あなたは、必要な福祉サービスの情報をどのくらい知っていると思いますか。

- ▶ 福祉サービスに関する情報の入手状況は、「まあまあ知っている」が43.4%と最も高くなっており、「とても知っている」(8.1%)と合わせると、「知っている」人が約5割を占めている。
- ▶ 一方で、「あまり知らない」(30.0%)と「ほとんど知らない」(14.5%)を合わせた「知らない」人は4割程度となっている。



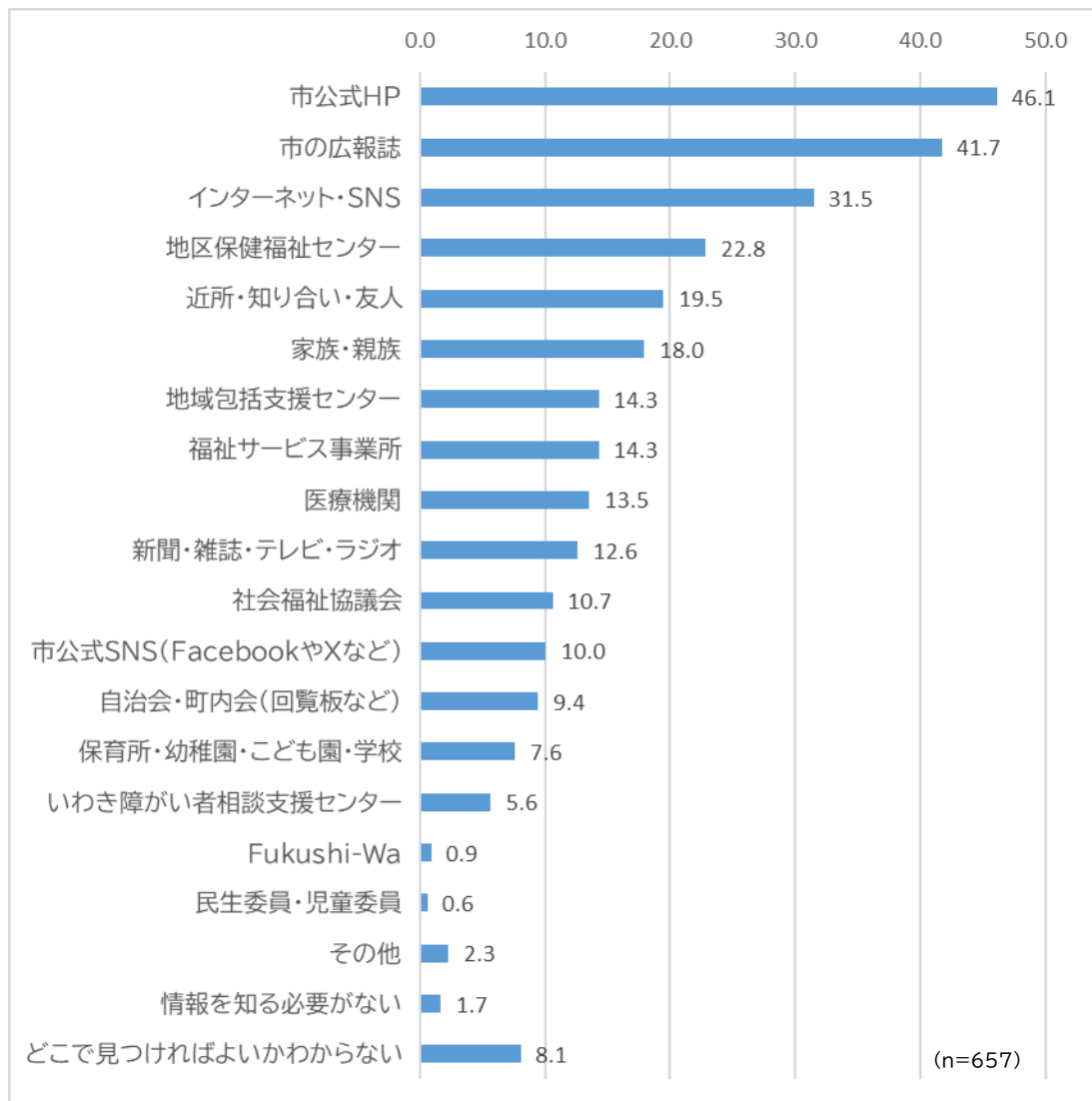
- ▶ 年代別にみると、30歳代から70歳以上では「まあまあ知っている」が最も高く、70歳以上では、7割以上を占めている。
- ▶ 一方で、概ね年代が下がるにつれて「知らない」が高くなる傾向がみられる。

		調査数	とても知っている	まあまあ知っている	あまり知らない	ほとんど知らない	わからない	知る必要がない
全体		657	8.1	43.4	30.0	14.5	3.8	0.3
性別	男性	280	8.2	43.6	29.6	14.3	3.6	0.7
	女性	365	7.9	44.1	29.9	14.5	3.6	0.0
	答えたくない	12	8.3	16.7	41.7	16.7	16.7	0.0
年齢	10歳代	20	0.0	20.0	45.0	25.0	10.0	0.0
	20歳代	70	8.6	27.1	30.0	27.1	7.1	0.0
	30歳代	129	4.7	40.3	31.0	17.1	6.2	0.8
	40歳代	148	11.5	41.9	31.8	12.2	2.7	0.0
	50歳代	210	7.6	51.0	27.6	11.4	1.9	0.5
	60歳代	57	12.3	42.1	29.8	12.3	3.5	0.0
	70歳以上	23	4.3	73.9	21.7	0.0	0.0	0.0

(20) 福祉サービスに関する情報の入手先

問 20 あなたは、福祉サービスの情報をどこで見つけますか。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 福祉サービスに関する情報の入手先は、「市公式 HP」が 46.1%と最も高く、次いで「市の広報誌」(41.7%)、「インターネット・SNS」(31.5%)、「地区保健福祉センター」(22.8%)の順となっている。



- ▶ 年代別にみると、10 歳代では「インターネット・SNS」、60 歳代・70 歳以上では「市の広報誌」、その他の年代では「市公式 HP」が最も高くなっている。
- ▶ また、概ね年代が上がるにつれて「市の広報誌」や「地区保健福祉センター」、「地域包括支援センター」などが高くなる傾向がみられる。
- ▶ 一方で、「どこで見つければよいかわからない」は、10 歳代が 30.0%と最も高く、次いで 30 歳代が 15.5%、20 歳代が 11.4%となっている。

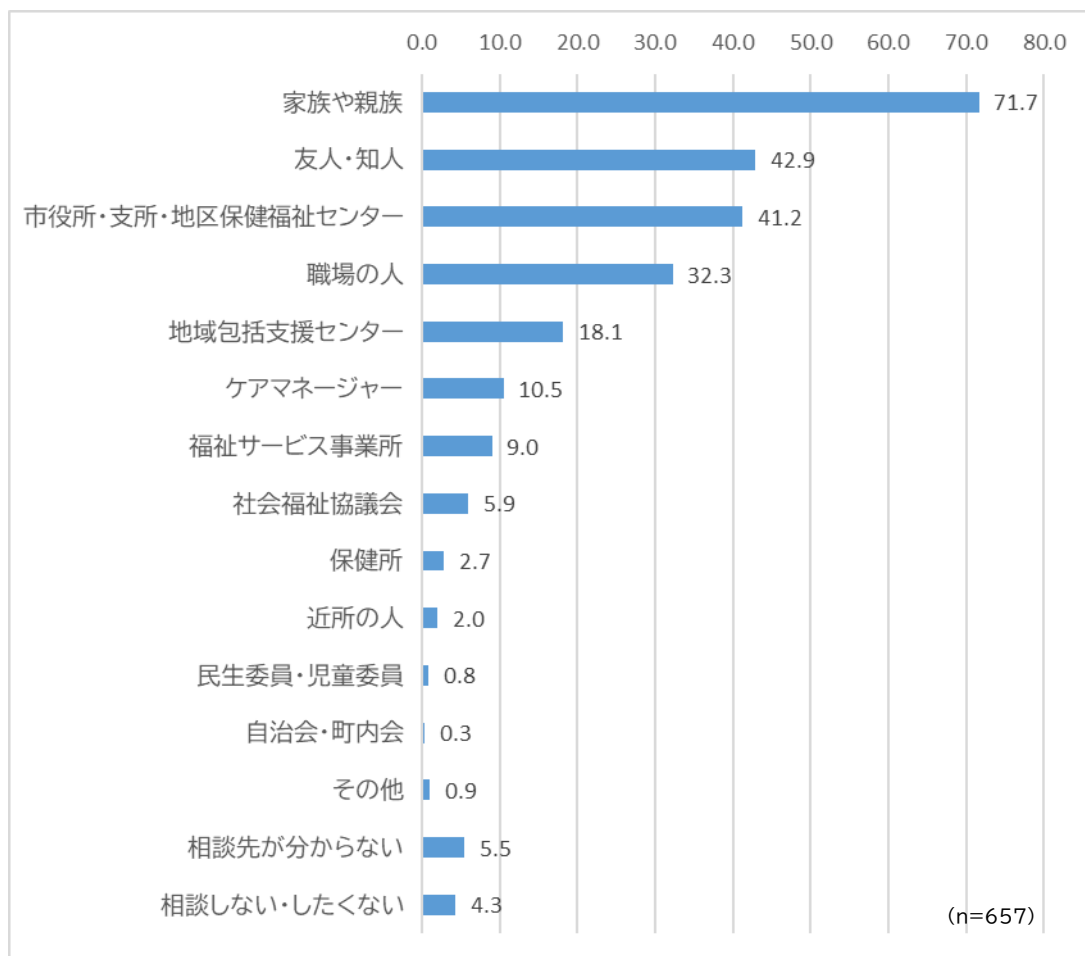
		調査数	市公式HP	市の広報誌	インターネット・SNS	地区保健福祉センター	近所・知り合い・友人	家族・親族	地域包括支援センター	福祉サービス事業所	医療機関	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ
全体		657	46.1	41.7	31.5	22.8	19.5	18.0	14.3	14.3	13.5	12.6
性別	男性	280	49.3	46.8	32.1	24.3	14.3	16.1	13.9	11.1	9.3	15.0
	女性	365	43.6	37.8	31.5	21.9	23.6	20.0	15.1	17.3	16.4	10.7
	答えたくない	12	50.0	41.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	25.0	16.7
年齢	10歳代	20	5.0	15.0	40.0	0.0	10.0	25.0	0.0	0.0	15.0	15.0
	20歳代	70	41.4	28.6	30.0	10.0	27.1	25.7	4.3	7.1	14.3	10.0
	30歳代	129	44.2	35.7	30.2	16.3	18.6	19.4	8.5	10.1	14.0	6.2
	40歳代	148	50.0	39.2	37.8	27.7	20.3	14.9	16.9	18.9	10.8	10.8
	50歳代	210	52.4	48.6	31.0	28.1	18.6	14.3	15.7	13.3	14.3	16.2
	60歳代	57	40.4	50.9	28.1	22.8	10.5	15.8	24.6	31.6	14.0	14.0
	70歳以上	23	39.1	69.6	8.7	39.1	34.8	39.1	34.8	8.7	17.4	30.4

		調査数	社会福祉協議会	市公式SNS（FacebookやXなど）	自治会・町内会（回覧板など）	保育所・幼稚園・こども園・学校	いわき障がい者相談支援センター	Fukushi-Wa	民生委員・児童委員	その他	情報を知る必要がない	どこで見つければよいかわからない
全体		657	10.7	10.0	9.4	7.6	5.6	0.9	0.6	2.3	1.7	8.1
性別	男性	280	10.4	9.3	9.3	3.2	5.0	1.1	1.1	3.2	1.8	8.6
	女性	365	11.0	10.7	9.9	11.2	6.3	0.8	0.3	1.6	1.6	7.4
	答えたくない	12	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
年齢	10歳代	20	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	5.0	30.0
	20歳代	70	4.3	8.6	2.9	4.3	1.4	1.4	0.0	4.3	4.3	11.4
	30歳代	129	9.3	9.3	10.1	15.5	7.0	0.8	0.0	1.6	3.1	15.5
	40歳代	148	12.2	15.5	9.5	12.8	7.4	0.7	0.0	4.1	0.7	5.4
	50歳代	210	11.9	9.0	8.6	2.9	6.2	1.0	0.0	0.5	1.0	4.3
	60歳代	57	12.3	8.8	14.0	3.5	0.0	1.8	1.8	1.8	0.0	3.5
	70歳以上	23	21.7	4.3	30.4	0.0	4.3	0.0	13.0	0.0	0.0	0.0

(21) 福祉に関する相談先

問 21 あなたは、福祉のことについて悩んだり、困ったとき、誰に相談しますか。
または、どこに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 福祉に関する相談先は、「家族や親族」が 71.7%と最も高く、次いで「友人・知人」(42.9%)、「市役所・支所・地区保健福祉センター」(41.2%)、「職場の人」(32.3%)の順となっている。



- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「家族や親族」が最も高くなっている。
- ▶ また、概ね年代が上がるにつれて「市役所・支所・地区保健福祉センター」や「地域包括支援センター」が高くなる傾向がみられる。

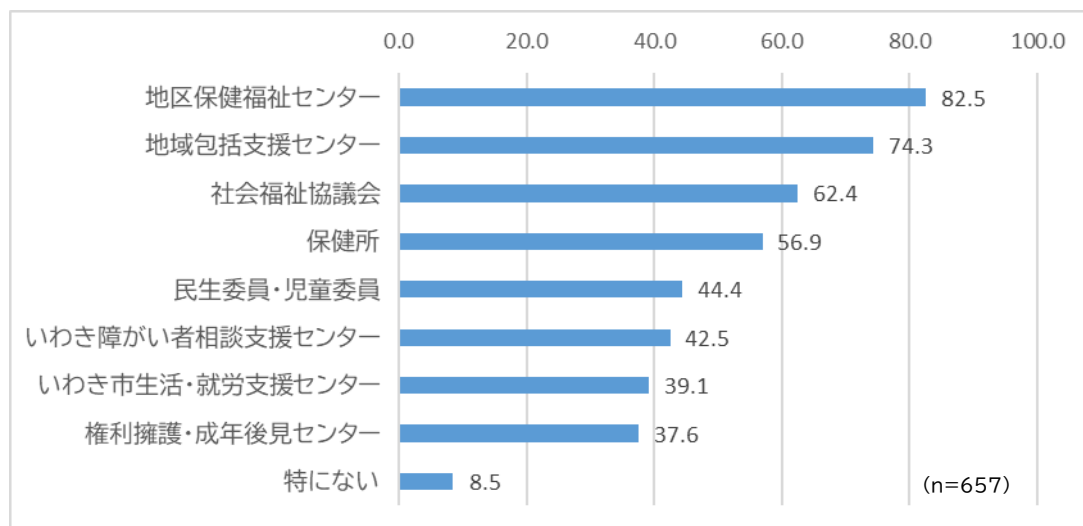
		調査数	家族や親族	友人・知人	市役所・支所・地区保健福祉センター	職場の人	地域包括支援センター	ケアマネージャー	福祉サービス事業所	社会福祉協議会
全体		657	71.7	42.9	41.2	32.3	18.1	10.5	9.0	5.9
性別	男性	280	65.4	36.8	45.0	31.4	20.0	9.6	6.4	7.5
	女性	365	77.0	48.5	39.5	33.2	17.3	11.2	11.2	4.9
	答えたくない	12	58.3	16.7	8.3	25.0	0.0	8.3	0.0	0.0
年齢	10歳代	20	80.0	40.0	0.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0
	20歳代	70	77.1	44.3	18.6	27.1	7.1	2.9	2.9	5.7
	30歳代	129	76.0	41.9	30.2	40.3	7.8	5.4	7.8	3.9
	40歳代	148	73.0	47.3	41.2	34.5	21.6	4.7	8.1	3.4
	50歳代	210	67.1	40.5	57.6	32.4	24.3	18.1	11.0	6.7
	60歳代	57	63.2	43.9	38.6	31.6	26.3	15.8	15.8	14.0
	70歳以上	23	78.3	39.1	65.2	13.0	26.1	21.7	13.0	13.0

		調査数	保健所	近所の人	民生委員・児童委員	自治会・町内会	その他	相談先が分からない	相談しない・したくない
全体		657	2.7	2.0	0.8	0.3	0.9	5.5	4.3
性別	男性	280	2.5	1.8	1.1	0.4	0.7	5.7	6.4
	女性	365	3.0	2.2	0.5	0.3	1.1	4.7	2.7
	答えたくない	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
年齢	10歳代	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	20.0
	20歳代	70	2.9	1.4	0.0	0.0	1.4	7.1	7.1
	30歳代	129	3.1	0.8	0.0	0.0	2.3	5.4	6.2
	40歳代	148	3.4	1.4	0.7	0.7	0.7	4.7	4.1
	50歳代	210	2.4	2.4	0.5	0.0	0.5	5.2	1.9
	60歳代	57	3.5	1.8	1.8	1.8	0.0	5.3	0.0
	70歳以上	23	0.0	13.0	8.7	0.0	0.0	0.0	4.3

(22) いわき市にある相談窓口の認知度

問 22 あなたは、いわき市にある次の相談窓口を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ いわき市にある相談窓口の認知度は、「地区保健福祉センター」が 82.5%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」(74.3%)、「社会福祉協議会」(62.4%)、「保健所」(56.9%)の順となっている。



- ▶ 年代別にみると、20歳代から60歳代では「地区保健福祉センター」、10歳代では「特にない」が最も高くなっている。

		調 査 数	地 区 保 健 福 祉 セ ン タ ー	地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー	社 会 福 祉 協 議 会	保 健 所	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員	い わ き 障 が い 者 相 談 支 援 セ ン タ ー	い わ き 市 生 活 ・ 就 労 支 援 セ ン タ ー	権 利 擁 護 ・ 成 年 後 見 セ ン タ ー	特 に な い
全体		657	82.5	74.3	62.4	56.9	44.4	42.5	39.1	37.6	8.5
性別	男性	280	86.8	78.9	71.8	63.6	52.5	43.9	42.5	43.9	6.8
	女性	365	80.0	71.5	55.6	52.6	39.5	41.4	36.7	33.4	9.0
	答えたくない	12	58.3	50.0	50.0	33.3	8.3	41.7	33.3	16.7	33.3
年齢	10歳代	20	30.0	35.0	15.0	20.0	5.0	0.0	5.0	0.0	45.0
	20歳代	70	65.7	62.9	50.0	57.1	37.1	42.9	44.3	21.4	14.3
	30歳代	129	77.5	59.7	49.6	48.1	36.4	37.2	35.7	34.9	15.5
	40歳代	148	91.2	79.1	65.5	64.2	51.4	48.6	44.6	46.6	4.1
	50歳代	210	89.5	86.7	73.3	63.3	52.9	46.2	42.4	45.2	4.3
	60歳代	57	82.5	70.2	63.2	47.4	29.8	38.6	29.8	26.3	3.5
	70歳以上	23	87.0	91.3	91.3	56.5	60.9	43.5	30.4	34.8	0.0

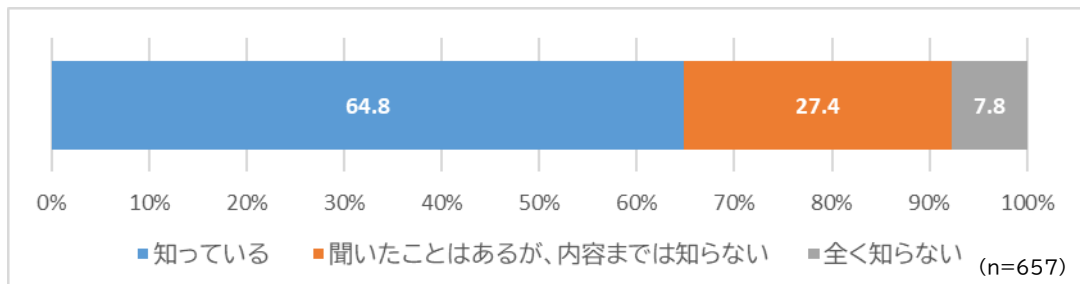
6 権利擁護に関する制度について

(23) 成年後見制度の認知度

問 23 あなたは、次の制度を知っていますか。(それぞれ1つだけに○)

①成年後見制度

- ▶ 成年後見制度の認知度は、「知っている」が64.8%と6割以上を占めて最も高くなっている。
- ▶ 一方で、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(27.4%)と「全く知らない」(7.8%)を合わせた「知らない」人は3割程度となっている。

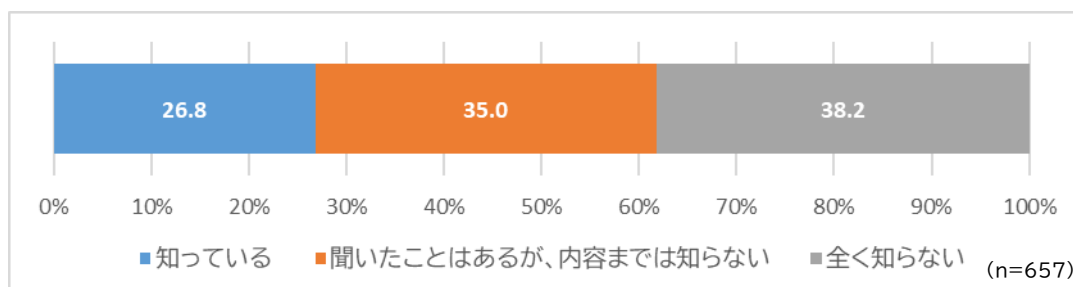


- ▶ 年代別にみると、「知っている」の割合は、70歳以上が約8割と最も高く、次いで40歳代、50歳代の順となっている。
- ▶ 一方で、概ね年代が下がるにつれて「全く知らない」が高くなる傾向がみられ、10歳代では半数を占めている。

		調査数	知っている	聞いたことはあるが、内容までは知らない	全く知らない
全体		657	64.8	27.4	7.8
性別	男性	280	71.1	22.1	6.8
	女性	365	60.3	31.2	8.5
	答えたくない	12	58.3	33.3	8.3
年齢	10歳代	20	5.0	45.0	50.0
	20歳代	70	60.0	24.3	15.7
	30歳代	129	59.7	28.7	11.6
	40歳代	148	71.6	23.0	5.4
	50歳代	210	69.0	28.6	2.4
	60歳代	57	63.2	33.3	3.5
	70歳以上	23	82.6	17.4	0.0

②市民後見人

- ▶ 市民後見人の認知度は、「全く知らない」が38.2%と最も高く、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(35.0%)と合わせると、「知らない」人が7割以上を占めている。
- ▶ 一方で、「知っている」人は26.8%と2割程度となっている。

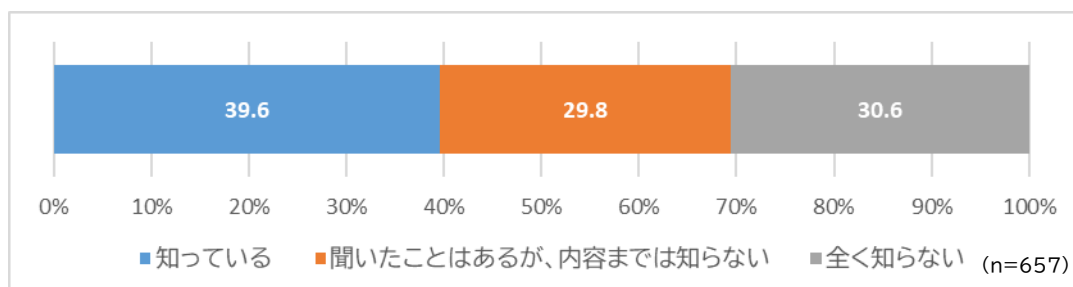


- ▶ 年代別にみると、「知っている」の割合は、40歳代が最も高いが、約3割となっている。
- ▶ 一方で、概ね年代が下がるにつれて「全く知らない」が高くなる傾向がみられ、10歳代では7割を占めている。

		調査数	知っている	聞いたことはあるが、内容までは知らないが、	全く知らない
全体		657	26.8	35.0	38.2
性別	男性	280	29.3	33.9	36.8
	女性	365	25.5	35.6	38.9
	答えたくない	12	8.3	41.7	50.0
年齢	10歳代	20	0.0	30.0	70.0
	20歳代	70	20.0	32.9	47.1
	30歳代	129	27.9	29.5	42.6
	40歳代	148	33.1	39.2	27.7
	50歳代	210	25.7	37.1	37.1
	60歳代	57	29.8	31.6	38.6
	70歳以上	23	26.1	39.1	34.8

③権利擁護・成年後見センター

- ▶ 権利擁護・成年後見センターの認知度は、「知っている」が39.6%と約4割を占めて最も高くなっている。
- ▶ 一方で、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(29.8%)と「全く知らない」(30.6%)を合わせた「知らない」人は6割程度となっている。



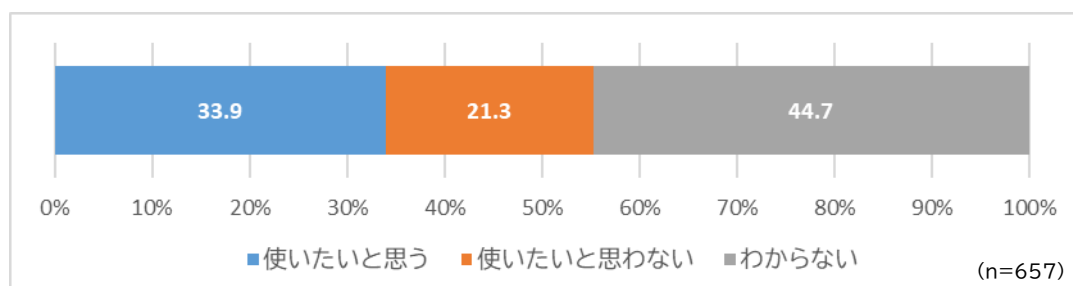
- ▶ 年代別にみると、「知っている」の割合は、40歳代が約5割と最も高く、次いで50歳代、60歳代の順となっている。
- ▶ 一方で、概ね年代が下がるにつれて「全く知らない」が高くなる傾向がみられ、10歳代では約6割を占めている。

		調査数	知っている	聞いたことはあるが、内容までは知らない	全く知らない
全体		657	39.6	29.8	30.6
性別	男性	280	43.2	28.9	27.9
	女性	365	37.3	30.4	32.3
	答えたくない	12	25.0	33.3	41.7
年齢	10歳代	20	0.0	35.0	65.0
	20歳代	70	30.0	28.6	41.4
	30歳代	129	36.4	25.6	38.0
	40歳代	148	50.7	29.1	20.3
	50歳代	210	41.4	33.3	25.2
	60歳代	57	38.6	24.6	36.8
	70歳以上	23	34.8	39.1	26.1

(24) 成年後見制度の利用意向

問 24 あなたや家族の判断する力が弱くなったとき、成年後見制度（せいねんこうけんせいど）を使いたいですか。

- ▶ 成年後見制度の利用意向は、「わからない」が 44.7%と 4 割以上を占めて最も高くなっている。
- ▶ 一方で、「使いたいと思う」が 33.9%と 3 割を超え、「使いたくないと思う」(21.3%)を 12.6 ポイント上回っている。



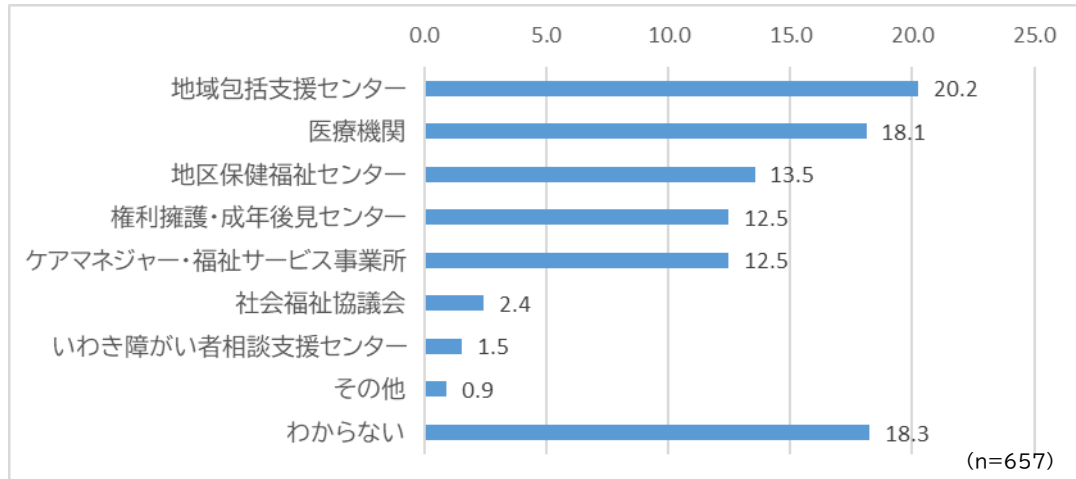
- ▶ 年代別にみると、「使いたいと思う」は、10 歳代が 4 割以上を占めて最も高く、次いで 40 歳代、20 歳代の順となっている。
- ▶ 一方で、「使いたくないと思う」の割合をみると、概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、60 歳代・70 歳以上では約 3 割を占めている。

		調査数	使いたいと思う	使いたくないと思う	わからない
全体		657	33.9	21.3	44.7
性別	男性	280	35.7	23.9	40.4
	女性	365	32.9	19.7	47.4
	答えたくない	12	25.0	8.3	66.7
年齢	10歳代	20	45.0	10.0	45.0
	20歳代	70	34.3	14.3	51.4
	30歳代	129	32.6	20.9	46.5
	40歳代	148	37.2	20.9	41.9
	50歳代	210	32.9	21.0	46.2
	60歳代	57	31.6	33.3	35.1
	70歳以上	23	26.1	30.4	43.5

(25) 自分や家族の判断能力が低下した場合の相談先

問 25 あなたや家族の判断能力が不十分となった場合、どこに相談しようと思いますか。(3つまで○)

- ▶ 自分や家族の判断能力が低下した場合の相談先は、「地域包括支援センター」が20.2%と最も高く、次いで「わからない」(18.3%)、「医療機関」(18.1%)、「地区保健福祉センター」(13.5%)の順となっている。



- ▶ 年代別にみると、40歳代から70歳以上では、「地域包括支援センター」や「地区保健福祉センター」の割合が高くなっている。
- ▶ 10歳代から30歳代では、「わからない」の割合が最も高く、10歳代では4割を占めている。

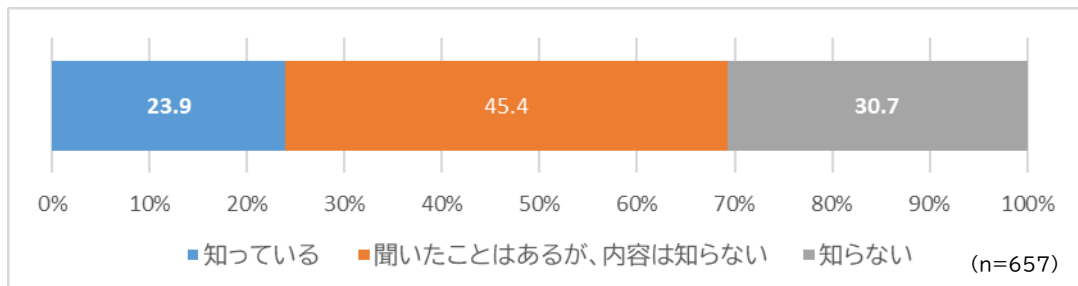
	調査数	地域包括支援センター	医療機関	地区保健福祉センター	権利擁護・成年後見センター	ケアマネジャー・福祉サービス事業所	社会福祉協議会	いわき障がい者相談支援センター	その他	わからない
全体	657	20.2	18.1	13.5	12.5	12.5	2.4	1.5	0.9	18.3
性別	男性	280	20.4	15.0	17.1	13.9	8.9	3.2	1.4	18.6
	女性	365	20.5	20.0	10.7	11.8	15.3	1.6	1.6	17.8
	答えたくない	12	8.3	33.3	16.7	0.0	8.3	8.3	0.0	25.0
年齢	10歳代	20	10.0	35.0	0.0	5.0	5.0	5.0	0.0	40.0
	20歳代	70	8.6	27.1	2.9	18.6	10.0	1.4	2.9	28.6
	30歳代	129	19.4	17.1	11.6	9.3	13.2	3.1	2.3	22.5
	40歳代	148	25.0	14.9	13.5	14.2	12.8	0.7	1.4	15.5
	50歳代	210	24.3	13.8	19.5	13.3	14.3	1.9	0.5	11.9
	60歳代	57	14.0	26.3	8.8	10.5	8.8	7.0	3.5	21.1
	70歳以上	23	17.4	21.7	26.1	4.3	13.0	4.3	0.0	13.0

7 再犯防止の取り組みについて

(26) 再犯防止対策の認知度

問 26 あなたは、国が再犯防止（もう一度犯罪をしないようにすること）の対策を進めていることを知っていますか。

- ▶ 再犯防止対策の認知度は、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 45.4% と最も高く、「知らない」(30.7%) と合わせると、「知らない」人が 7 割以上を占めている。
- ▶ 一方で、「知っている」人は 23.9% と 2 割程度となっている。



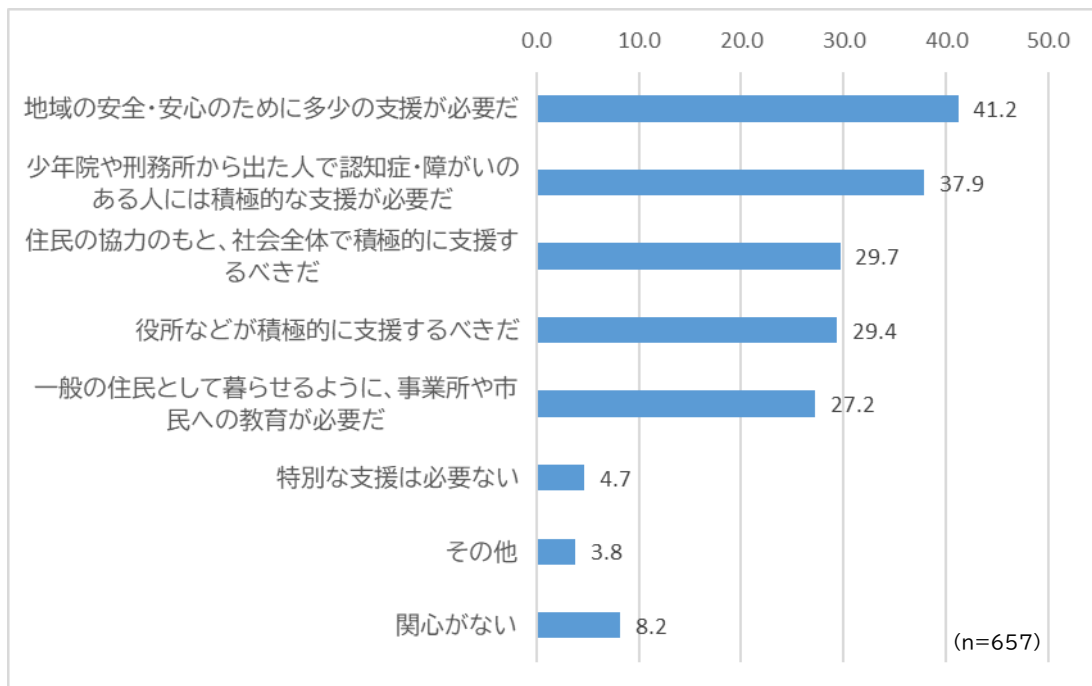
- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「聞いたことはあるが、内容までは知らない」または「知らない」の割合が最も高くなっている。
- ▶ また、「知っている」の割合をみると、20 歳代・70 歳以上で 3 割を超えている。

		調査数	知っている	聞いたことはあるが、内容までは知らない	知らない
全体		657	23.9	45.4	30.7
性別	男性	280	26.8	46.8	26.4
	女性	365	21.4	44.4	34.2
	答えたくない	12	33.3	41.7	25.0
年齢	10歳代	20	25.0	35.0	40.0
	20歳代	70	32.9	35.7	31.4
	30歳代	129	19.4	40.3	40.3
	40歳代	148	25.0	40.5	34.5
	50歳代	210	23.3	50.5	26.2
	60歳代	57	19.3	57.9	22.8
	70歳以上	23	30.4	65.2	4.3

(27) 犯罪をした人の社会復帰に対する考え

問 27 刑務所や少年院を出た人が、社会に戻るのを助けることについて、あなたの考えを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 犯罪をした人の社会復帰に対する考えは、「地域の安全・安心のために多少の支援が必要だ」が41.2%と最も高く、次いで「少年院や刑務所から出た人で認知症・障がいのある人には積極的な支援が必要だ」(37.9%)、「住民の協力のもと、社会全体で積極的に支援するべきだ」(29.7%)の順となっている。



【その他の意見】

- ・ 地域や福祉の支援があれば再犯を防止できるとは思わない。医療や司法の支援がもっと必要だと考える。
- ・ 支援は必要だと思うが専門的な知識がある方でないと支援が難しいと思う。
- ・ 犯罪が割に合わないことだということを教育する機会を増やすとともに、協力する住民に危害が発生しないような仕組み、制度を確立させなければ意味がない。また、再犯防止に係る支援の時間的、金銭的、精神的負担は大きく、負担を軽減ないし、負担に対する報酬を支払う仕組みについても検討が必要だと思う。
- ・ 地域に知らせる、監視する制度が必要。
- ・ 刑に服した内容を精査した上で手助けを必要とする者には支援をすれば良い。悪質な者に支援は必要ない。
- ・ 力になりたいと思うが、怖いと言う気持ちの方が強い。
- ・ 犯罪者が施設を出てこられると正直なところ困ります。反省も後悔もしていないと思います。子供の登下校時、遊ぶ時など親の目がない場所での活動がとても不安です。

- ▶ 性別にみると、女性は「少年院や刑務所から出た人で認知症・障がいのある人には積極的な支援が必要だ」が45.2%と男性（28.6%）に比べて、16.6ポイント高くなっている。
- ▶ 年代別にみると、30歳代では「役所などが積極的に支援するべきだ」が最も高くなっている。
- ▶ また、60歳代・70歳代では、「一般の住民として暮らせるように、事業所や市民への教育が必要だ」が、その他の年代に比べて高くなっている。

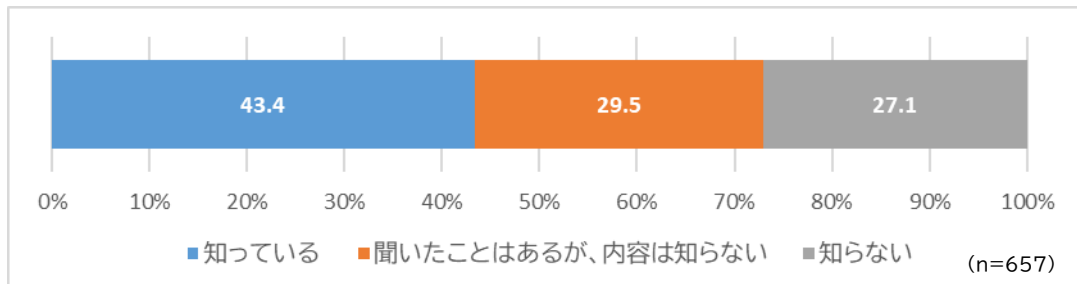
		調査数	地域の安全・安心のために多少の支援が必要だ	少年院や刑務所から出た人には積極的な支援が必要だ	住民の協力のもと、社会全体で積極的に支援するべきだ	役所などが積極的に支援するべきだ	一般の住民として暮らせるよう事業所や市民への教育が必要だ	特別な支援は必要ない	その他	関心がない
全体		657	41.2	37.9	29.7	29.4	27.2	4.7	3.8	8.2
性別	男性	280	43.6	28.6	29.6	26.1	29.3	6.1	3.9	7.5
	女性	365	40.3	45.2	30.1	32.1	26.6	3.0	3.6	8.5
	答えたくない	12	16.7	33.3	16.7	25.0	0.0	25.0	8.3	16.7
年齢	10歳代	20	50.0	35.0	45.0	30.0	25.0	5.0	5.0	10.0
	20歳代	70	35.7	37.1	30.0	28.6	24.3	8.6	2.9	10.0
	30歳代	129	31.0	32.6	22.5	34.1	18.6	8.5	7.8	14.7
	40歳代	148	44.6	39.9	32.4	30.4	27.0	3.4	3.4	4.7
	50歳代	210	46.7	41.0	29.0	24.8	27.1	2.9	2.4	6.7
	60歳代	57	36.8	38.6	35.1	31.6	40.4	3.5	3.5	7.0
	70歳以上	23	47.8	30.4	30.4	34.8	56.5	0.0	0.0	4.3

8 災害発生時の備えについて

(28) 避難行動要支援者避難支援制度の認知度

問 28 あなたは、避難が必要な人を助ける制度（避難行動要支援者避難支援制度）を知っていますか。

- ▶ 避難行動要支援者避難支援制度の認知度は、「知っている」が 43.4%と 4 割以上を占めて最も高くなっている。
- ▶ 一方で、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（29.5%）と「全く知らない」（27.1%）を合わせると、「内容を知らない」人は 6 割程度となっている。



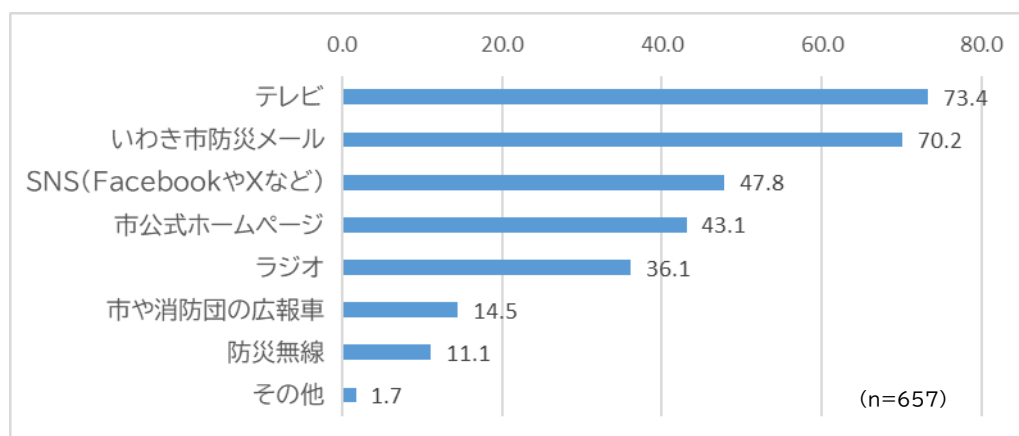
- ▶ 年代別にみると、40 歳代から 70 歳以上では「知っている」が最も高く、40 歳代では 5 割以上を占めている。
- ▶ 10 歳代から 30 歳代では、「知らない」の割合が高く、約 4 割を占めている。

		調査数	知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
全体		657	43.4	29.5	27.1
性別	男性	280	48.2	29.3	22.5
	女性	365	40.5	29.0	30.4
	答えたくない	12	16.7	50.0	33.3
年齢	10歳代	20	10.0	50.0	40.0
	20歳代	70	28.6	27.1	44.3
	30歳代	129	32.6	31.8	35.7
	40歳代	148	53.4	21.6	25.0
	50歳代	210	50.5	31.9	17.6
	60歳代	57	43.9	31.6	24.6
	70歳以上	23	47.8	30.4	21.7

(29) 避難情報や災害情報の入手先

問 29 あなたは、災害が起こりそうなときに、避難場所や避難情報、災害の情報をどのようにして知りますか。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 避難情報や災害情報の入手先は、「テレビ」が73.4%と最も高く、次いで「いわき市防災メール」(70.2%)、「SNS (Facebook や X など)」(47.8%) の順となっている。



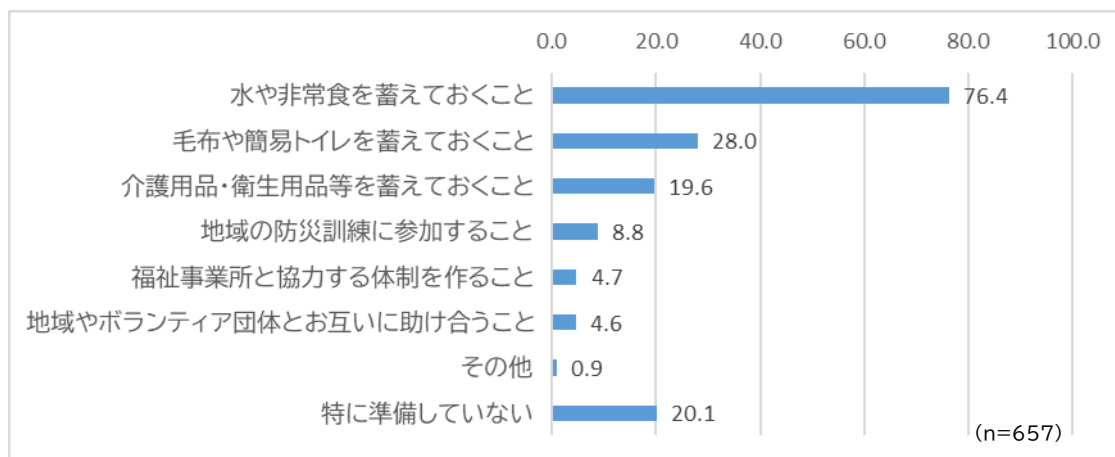
- ▶ 年代別にみると、20 歳代では「SNS (Facebook や X など)」、40 歳代では「いわき市防災メール」、その他の年代では「テレビ」が最も高くなっている。
- ▶ 70 歳以上では、「ラジオ」がその他の年代に比べて高くなっている。

		調査数	テレビ	いわき市防災メール	や SNS (Facebook など)	市公式ホームページ	ラジオ	市や消防団の広報車	防災無線	その他
全体		657	73.4	70.2	47.8	43.1	36.1	14.5	11.1	1.7
性別	男性	280	78.2	71.4	43.6	45.0	40.0	16.4	11.1	1.8
	女性	365	70.4	69.3	51.8	42.5	33.2	13.4	11.0	1.6
	答えたくない	12	50.0	66.7	25.0	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0
年齢	10歳代	20	70.0	40.0	60.0	5.0	30.0	10.0	25.0	5.0
	20歳代	70	72.9	47.1	75.7	35.7	18.6	10.0	10.0	1.4
	30歳代	129	71.3	65.9	52.7	38.8	33.3	8.5	14.0	1.6
	40歳代	148	67.6	77.7	52.7	49.3	35.1	12.2	8.1	1.4
	50歳代	210	79.0	78.1	39.0	49.0	37.6	16.2	11.0	2.4
	60歳代	57	75.4	71.9	29.8	40.4	50.9	26.3	12.3	0.0
	70歳以上	23	69.6	65.2	17.4	34.8	65.2	34.8	4.3	0.0

(30) 災害発生時に備えて準備していること

問 30 あなたは、大きな地震や洪水に備えて、普段からどんな準備をしていますか。

- ▶ 災害発生時に備えて準備していることは、「水や非常食を蓄えておくこと」が76.4%と最も高く、次いで「毛布や簡易トイレを蓄えておくこと」(28.0%)、「介護用品・衛生用品等を蓄えておくこと」(19.6%)の順となっている。



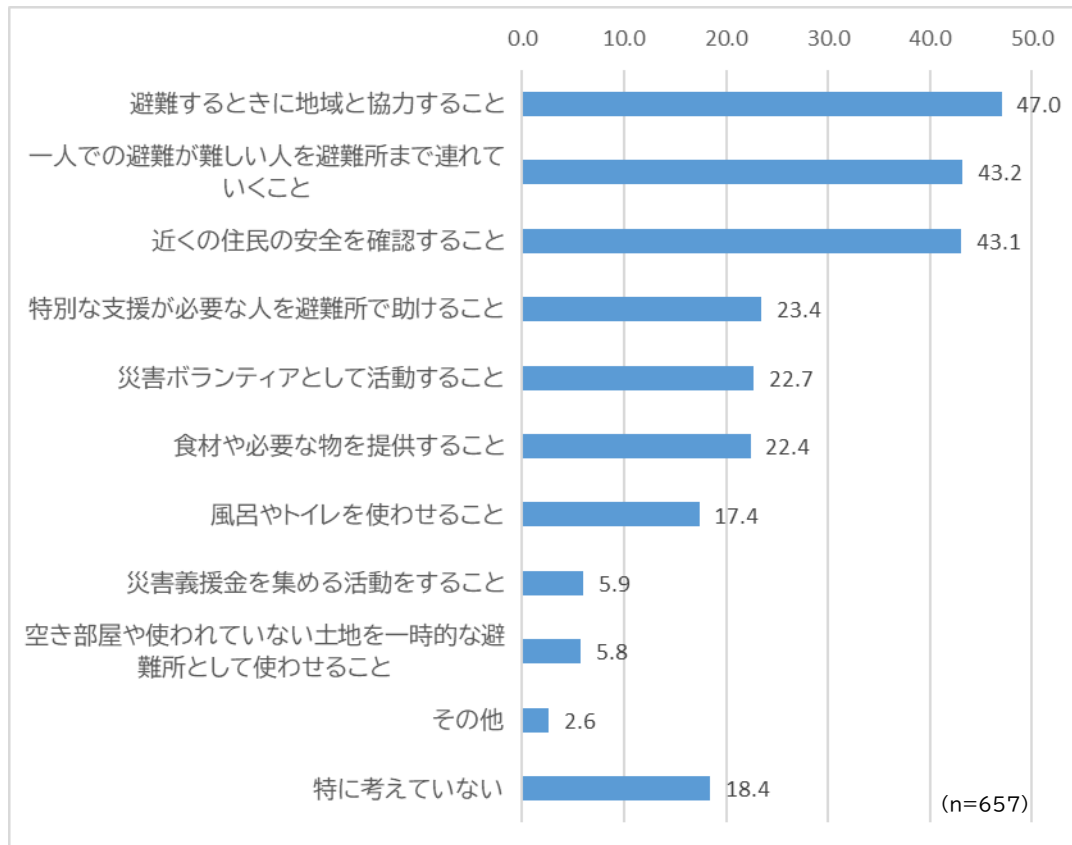
- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「水や非常食を蓄えておくこと」が最も高くなっている。
- ▶ また、「特に準備していない」は、20歳代・30歳代がその他の年代に比べてやや高くなっている。

		調査数	水や非常食を蓄えておくこと	毛布や簡易トイレを蓄えておくこと	介護用品・衛生用品等を蓄えておくこと	地域の防災訓練に参加すること	福祉事業所と協力する体制を作ること	地域やボランティア団体とお互いに助け合うこと	その他	特に準備していない
全体		657	76.4	28.0	19.6	8.8	4.7	4.6	0.9	20.1
性別	男性	280	75.0	22.5	14.6	8.9	5.0	5.0	1.8	21.1
	女性	365	78.4	32.1	23.3	8.5	4.4	4.1	0.3	18.4
	答えたくない	12	50.0	33.3	25.0	16.7	8.3	8.3	0.0	50.0
年齢	10歳代	20	80.0	15.0	10.0	5.0	5.0	10.0	5.0	15.0
	20歳代	70	60.0	25.7	12.9	15.7	2.9	0.0	1.4	34.3
	30歳代	129	69.0	28.7	27.9	3.1	3.9	3.9	1.6	27.9
	40歳代	148	85.1	27.0	23.6	9.5	5.4	6.8	0.7	13.5
	50歳代	210	77.1	29.5	16.2	8.6	5.2	2.9	0.0	19.0
	60歳代	57	84.2	33.3	14.0	10.5	3.5	7.0	0.0	10.5
	70歳以上	23	82.6	21.7	21.7	17.4	8.7	13.0	4.3	13.0

(31) 災害発生時に手助けできること

問 31 あなたは、大きな地震や洪水があったとき、地域を助けるためにどんなことができますか。(あてはまるものすべてに○)

- ▶ 災害発生時に手助けできることは、「避難するときに地域と協力すること」が47.0%と最も高く、次いで「一人での避難が難しい人を避難所まで連れていくこと」(43.2%)、「近くの住民の安全を確認すること」(43.1%)の順となっている。



【その他の意見】

- ・ 消防団員として活動する。
- ・ 職場で招集されるため、手助けできない。
- ・ 自分の家族を守るためで精いっぱい
- ・ 地域を助けている余裕はない
- ・ 災害の発生状況にもよるが、一刻も早く避難しなければならないタイミングでのほかの人の避難の支援は難しい。危険がない状態での避難支援や安全確認であれば可能。

- ▶ 年代別にみると、全体の傾向と同様に上位3項目の割合が高くなっている。
- ▶ また、「特に考えていない」の割合は、10歳代・30歳代がその他の年代に比べてやや高くなっている。

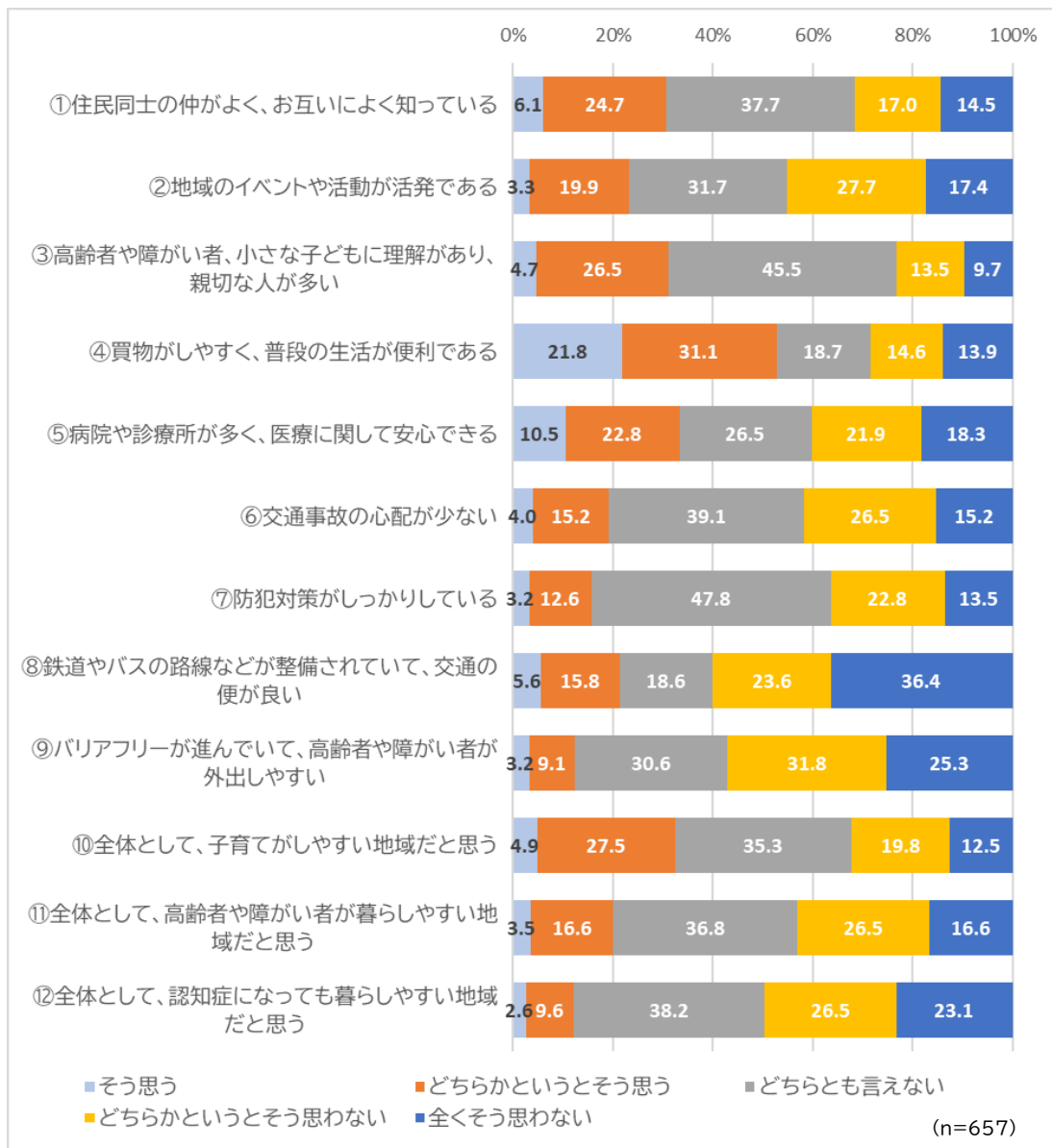
		調査数	避難すること 避難するときに地域と協力する	一人までの避難が難しい人 を避けること	近くの住民の安全を確認すること	特別な支援が必要な人を避難 所で助けること	災害ボランティアとして活動 すること	食料や必要な物を提供するこ と	風呂やトイレを共用すること	災害義援金を集める活動をする こと	空き部屋や使われていない土地を 一時的な避難所として使 わせること	その他	特に考えていない
全体		657	47.0	43.2	43.1	23.4	22.7	22.4	17.4	5.9	5.8	2.6	18.4
性別	男性	280	48.9	43.6	45.0	20.0	26.1	16.1	16.1	6.8	5.7	4.3	18.2
	女性	365	45.8	42.5	41.9	25.8	19.7	26.8	18.4	5.2	5.8	1.4	18.4
	答えたくない	12	41.7	58.3	33.3	33.3	33.3	33.3	16.7	8.3	8.3	0.0	25.0
年齢	10歳代	20	40.0	40.0	25.0	10.0	30.0	30.0	10.0	5.0	5.0	10.0	25.0
	20歳代	70	42.9	45.7	34.3	17.1	27.1	18.6	12.9	7.1	0.0	1.4	17.1
	30歳代	129	41.1	38.0	30.2	21.7	19.4	17.8	14.7	6.2	7.8	3.1	27.1
	40歳代	148	46.6	43.2	44.6	27.7	22.3	19.6	14.9	7.4	4.1	4.1	14.2
	50歳代	210	50.0	43.8	48.6	22.9	23.3	26.2	18.6	4.8	6.2	1.9	18.6
	60歳代	57	50.9	50.9	59.6	33.3	22.8	28.1	21.1	5.3	7.0	0.0	8.8
	70歳以上	23	65.2	43.5	56.5	17.4	17.4	21.7	47.8	4.3	17.4	0.0	17.4

9 地域における福祉体制づくりについて

(32) 地域における暮らしや環境に対する評価

問 32 あなたが住んでいる地域で、次の①～⑫のことについて、どう思いますか。
一つずつ教えてください。

- ▶ 住んでいる地域については、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“④買物がしやすく、普段の生活が便利である”が52.8%と5割以上を占めて最も高く、次いで“⑤病院や診療所が多く、医療に関して安心できる”(33.3%)、“⑩全体として、子育てがしやすい地域だと思う”(32.4%)の順となっている。
- ▶ 一方で、「どちらかというと思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“⑧鉄道やバスの路線などが整備されていて、交通の便が良い”が60.0%と6割を占めて最も高く、次いで“⑨バリアフリーが進んでいて、高齢者や障がい者が外出しやすい”(57.1%)、“⑫全体として、認知症になっても暮らしやすい地域だと思う”(49.6%)の順となっている。



《選択肢の点数付けによる評価》

- ▶ 年代別にみると、10歳代・20歳代は「②地域のイベントや活動が活発である」の評価が、その他の年代に比べて低くなっている。
- ▶ 地区別にみると、平地区は「⑩全体として、子育てがしやすい地域だと思う」、小名浜地区、内郷・好間・三和地区は「④買物がしやすく、普段の生活が便利である」の評価が、その他の地区に比べて高くなっている。
- ▶ また、勿来・田人地区、四倉・久之浜大久地区、小川・川前地区は、その他の地区に比べて「①住民同士の仲がよく、お互いによく知っている」の評価が高く、「⑤病院や診療所が多く、医療に関して安心できる」の評価が低くなっている。

		調査数	①住民同士の仲がよく、お互い	②地域のイベントや活動が活発である	③高齢者や障がい者、小さな子どもにも理解があり、親切な人が多い	④買物がしやすく、普段の生活が便利である	⑤病院や診療所が多く、医療に関して安心できる	⑥交通事故の心配が少ない	⑦防犯対策がしっかりしている	⑧鉄道やバスの路線などが良い整備されている	⑨高齢者や障がい者が進んでいて、い	⑩全体として、子育てがしやすい地域だと思う	⑪全体として、高齢者や障がい者が暮らしやすい地域だと思	⑫全体として、認知症になっ
性別	全体	657	-0.1	-0.4	0.0	0.3	-0.1	-0.3	-0.3	-0.7	-0.7	-0.1	-0.4	-0.6
	男性	280	0.0	-0.3	0.0	0.4	0.0	-0.2	-0.2	-0.5	-0.6	0.0	-0.3	-0.6
	女性	365	-0.1	-0.4	0.1	0.3	-0.3	-0.4	-0.4	-0.8	-0.7	-0.1	-0.4	-0.6
	答えたくない	12	-0.8	-0.9	-0.5	-0.2	-0.9	-1.2	-0.8	-1.7	-1.3	-1.2	-1.3	-1.7
年齢	10歳代	20	-0.1	-0.7	0.2	0.6	-0.2	0.1	0.1	-0.1	-0.3	0.2	-0.1	-0.1
	20歳代	70	-0.4	-0.7	-0.2	0.3	-0.1	-0.6	-0.3	-0.8	-0.5	-0.2	-0.4	-0.4
	30歳代	129	-0.3	-0.3	-0.2	0.4	-0.2	-0.5	-0.4	-0.7	-0.7	-0.1	-0.4	-0.7
	40歳代	148	0.0	-0.4	0.1	0.4	-0.1	-0.3	-0.4	-0.7	-0.8	0.0	-0.3	-0.6
	50歳代	210	0.1	-0.2	0.1	0.4	-0.1	-0.3	-0.3	-0.7	-0.7	0.0	-0.3	-0.5
	60歳代	57	-0.1	-0.4	-0.2	-0.4	-0.4	-0.4	-0.4	-1.1	-0.9	-0.3	-0.8	-1.0
	70歳以上	23	0.3	0.0	0.3	0.5	0.3	0.2	0.3	-0.6	-0.3	0.1	-0.1	-0.4
居住地区	平	257	-0.2	-0.4	0.0	0.3	-0.2	-0.3	-0.4	-0.5	-0.6	0.1	-0.3	-0.5
	小名浜	138	-0.2	-0.3	0.0	0.6	0.1	-0.4	-0.2	-0.6	-0.6	-0.1	-0.4	-0.5
	勿来・田人	70	0.3	-0.3	0.0	0.1	-0.6	-0.4	-0.2	-1.1	-0.9	-0.2	-0.5	-0.6
	常磐・遠野	55	-0.1	-0.3	0.0	0.1	0.1	-0.3	-0.3	-0.8	-0.8	-0.2	-0.5	-0.7
	内郷・好間・三和	105	-0.1	-0.5	0.1	0.6	0.1	-0.3	-0.3	-0.6	-0.7	-0.2	-0.3	-0.7
	四倉・久之浜大久	19	0.4	0.0	0.3	-0.3	-0.6	-0.4	-0.3	-1.2	-0.8	-0.4	-0.5	-0.6
	小川・川前	13	0.2	0.2	0.0	-1.2	-1.3	0.3	-0.8	-1.5	-1.4	-0.3	-0.9	-0.6

【算出方法】

選択肢ごとに以下の点数を付与し、その合計を回答数で除することで、加重平均にて得点を算出した。

「そう思う」：2点 「どちらかというと思う」：1点 「どちらとも言えない」：0点

「どちらかというと思わない」：-1点 「全くそう思わない」：-2点

※ 得点は-2点～2点の間に分布し、0点が中間点

【算出式】

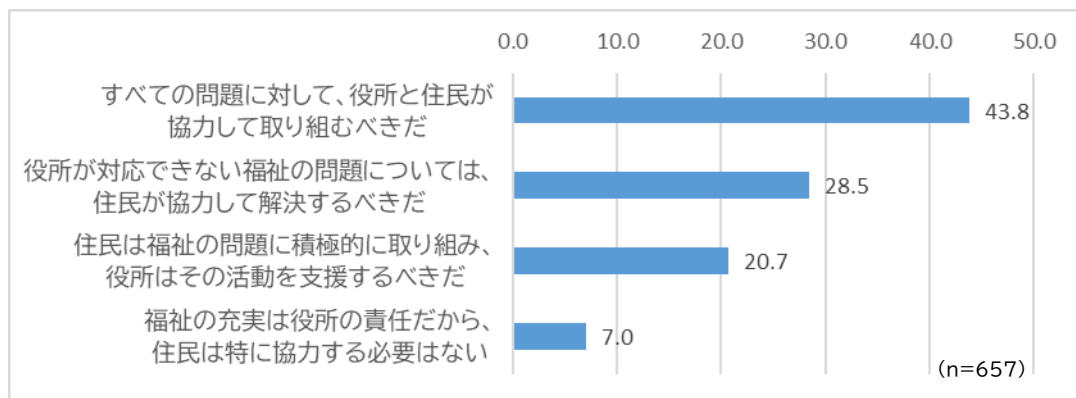
$$\left(\begin{array}{l} \text{「そう} \\ \text{思う} \end{array} \times 2 \text{点} \right) + \left(\begin{array}{l} \text{「どちら} \\ \text{かという} \\ \text{と思う} \end{array} \times 1 \text{点} \right) + \left(\begin{array}{l} \text{「どちらとも} \\ \text{言えない} \end{array} \times 0 \text{点} \right) + \left(\begin{array}{l} \text{「どちらか} \\ \text{という} \\ \text{と思わない} \end{array} \times -1 \text{点} \right) + \left(\begin{array}{l} \text{「全く} \\ \text{そう} \\ \text{思わない} \end{array} \times -2 \text{点} \right)$$

調査数

(33) 地域福祉を良くするための行政と地域住民との関係

問 33 あなたは、地域の福祉を良くするために、役所と地域の人々の関係についてどう考えていますか。(1つだけに○)

- ▶ 地域福祉を良くするための行政と地域住民との関係は、「すべての問題に対して、役所と住民が協力して取り組むべきだ」が43.8%と最も高く、次いで「役所が対応できない福祉の問題については、住民が協力して解決するべきだ」(28.5%)、「住民は福祉の問題に積極的に取り組み、役所はその活動を支援するべきだ」(20.7%)の順となっている。



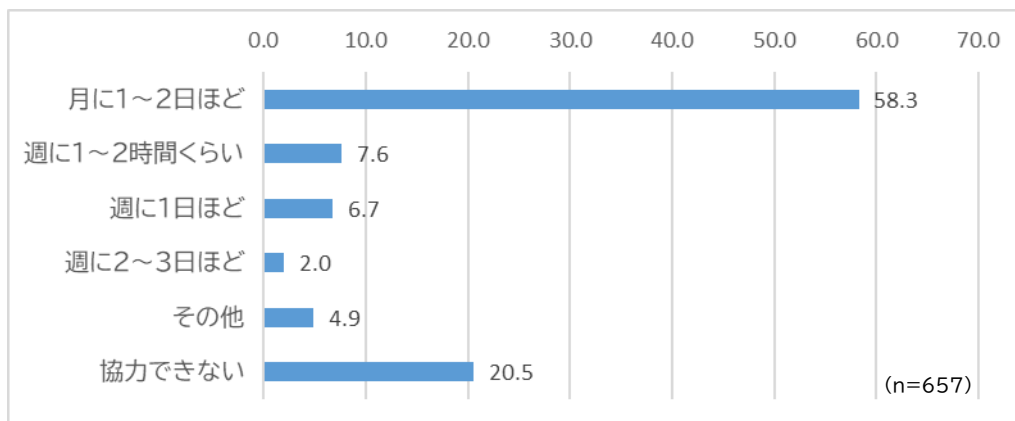
- ▶ 性別にみると、女性は「すべての問題に対して、役所と住民が協力して取り組むべきだ」が49.0%と男性(38.2%)に比べて、10.8ポイント高くなっている。
- ▶ 一方で、男性は「役所が対応できない福祉の問題については、住民が協力して解決するべきだ」が35.0%と女性(23.3%)に比べて、11.7ポイント高くなっている。
- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「すべての問題に対して、役所と住民が協力して取り組むべきだ」が最も高くなっている。

		調査数	すべての問題に対して、役所と住民が協力して取り組むべきだ (%)	役所が対応できない福祉の問題については、住民が協力して解決するべきだ (%)	住民は福祉の問題に積極的に取り組み、役所はその活動を支援するべきだ (%)	福祉の充実が役所の責任だから、住民は特に協力する必要はない (%)
全体		657	43.8	28.5	20.7	7.0
性別	男性	280	38.2	35.0	20.4	6.4
	女性	365	49.0	23.3	21.4	6.3
	答えたくない	12	16.7	33.3	8.3	41.7
年齢	10歳代	20	35.0	35.0	25.0	5.0
	20歳代	70	35.7	25.7	27.1	11.4
	30歳代	129	41.9	27.9	17.8	12.4
	40歳代	148	46.6	26.4	21.6	5.4
	50歳代	210	43.8	30.5	21.0	4.8
	60歳代	57	52.6	28.1	15.8	3.5
	70歳以上	23	47.8	30.4	17.4	4.3

(34) 地域福祉を良くするために協力できる時間

問 34 あなたは、地域の福祉を良くするために、どれくらいの時間なら協力できますか。(1つだけに○)

- ▶ 地域福祉を良くするために協力できる時間は、「月に1～2日ほど」が58.3%と最も高く、「週に1～2時間くらい」(7.6%)、「週に1日ほど」(6.7%)、「週に2～3日ほど」(2.0%)と合わせると、「協力できる」人が7割以上を占めている。



- ▶ 年代別にみると、すべての年代で「月に1～2日ほど」が最も高くなっている。
 ▶ 一方で、「協力できない」は、20歳代が27.1%と最も高く、次いで30歳代、50歳代の順となっている。

		調査数	月に1～2日ほど	週に1～2時間くらい	週に1日ほど	週に2～3日ほど	その他	協力できない
全体		657	58.3	7.6	6.7	2.0	4.9	20.5
性別	男性	280	56.4	9.6	8.6	1.4	4.6	19.3
	女性	365	60.8	6.3	5.2	1.6	4.9	21.1
	答えたくない	12	25.0	0.0	8.3	25.0	8.3	33.3
年齢	10歳代	20	70.0	5.0	10.0	0.0	5.0	10.0
	20歳代	70	50.0	7.1	10.0	2.9	2.9	27.1
	30歳代	129	54.3	2.3	5.4	3.1	8.5	26.4
	40歳代	148	66.9	6.8	5.4	0.7	3.4	16.9
	50歳代	210	57.6	10.5	3.3	1.4	5.2	21.9
	60歳代	57	63.2	12.3	12.3	1.8	1.8	8.8
	70歳以上	23	34.8	8.7	26.1	8.7	4.3	17.4

10 自由意見

問 35 地域の福祉や福祉全般について、意見や要望がある場合は、ここに書いてください。

【主な意見】

(寄せられたご意見の趣旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。)

<地域福祉について>

- ・ 地域の福祉の充実の為、住民の必要最低限の協力が必要である。また、当事者である住民の声が反映されるような形を整える。福祉全般において、環境整備が不可欠であり最重要項目でもある為、その改善を推し進めてほしい。同時に、住民が無知や偏見により、それを邪魔するような機会となってもいけない。地域の福祉や福祉全般において、環境を整えると共に、正しい情報が伝わるよう情報整備も進めてほしい。
- ・ 「自助」「互助」「共助」「公助」だけで地域を支えていくことは困難と考える。人口は減るばかり加えて私たちのような世代も共働きで必死に仕事をしないと子供を育てる余裕がない。そのため、古き良き日本のように自分の休みを活用して無償で人助けをするということを考えている余裕はない。「商助」のように有償で手助けできる人を募集したり、IoT・ICT 機器を活用してなんでも人手に頼らず効率的に地域を見守れるシステムを取り入れていくべきであると考えている。
- ・ 安易に他人に頼ることなく、自分でできることはしてもらわないと(生活する上での活動や金銭の負担など。特に金銭的な自己負担は、例えば年金収入(年所得)の有無だけではなく、貯蓄や資産までも反映しなければ公平性は保てないと思います。)、地域でのサポートはやり切れないと思います。

<地域のつながりについて>

- ・ 地域の繋がりは希薄になっている現状を感じている。相手に関わりを求めていることもありどのようにすればいいのか、わからない。
- ・ 最近近所地域との交流が昔と違って疎遠な為、支援をする、求める関係が希薄で難しいと思う。また、何かをしたくても経済的に困難で今の自分の生活で必死で、体調的にも無理して限界に近い。心身ともにゆとりがない為、他の人の状況まで広がらない。

<地域活動について>

- ・ 地域の高齢化が著しく、地区の大多数が後期高齢者であり、地区の美化活動等などの若年層の負担が大きくなってきている。10 年後に地区として存続すら危うい状況になっている。早急に対策を講じないと大変な事になる。
- ・ 働いている人は仕事、家事育児で精一杯で、地域活動する時間はない。企業が理解を示し、業務時間に有給で地域活動をやらせてもらえる仕組みが必要だと思う。
- ・ 自治会活動に参加する場合には公休になる制度などあれば積極的に参加したいと

思います。ボランティア募集も SNS 活用を進めてほしいです。なかなか情報に辿り着けないので。平日ボランティアセンターに行って、情報得るのは仕事している世代にはなかなか難しいことだと思います。

<高齢者支援について>

- ・ 訪問介護事業所が危機的状況。自分が高齢者になるころには、自宅で生活することは難しいと感じる。ヘルパーがいなければ、自宅で生活することは難しい。
- ・ 福祉施設などに助けてもらっていますがなかなか急なことには対応してはもらえない。金銭面的にもなかなか使いづらい事があります。
- ・ とにかく、バリアフルで暮らしにくいのでなんとかしてほしい。

<障がい者支援について>

- ・ 障害者の余暇活動の場が少ない。遠い。福祉施設、家族以外の第三の場所が欲しい。イベントがあっても知的障害だと家族がアテンドしないと参加できそうにない。
- ・ 知的障害の兄と二人暮らしなので、自分に万が一のことかあったら誰か兄をサポートしてくれる人なり組織なりがあってほしい。
- ・ いわき市には知的障害者の入所施設が少ないため、希望しても何年も待たなければならない。家庭でめんどろを見ていた親は高齢になってもずっと子どもの世話をしている。体力的にも精神的にも限界にきているが、それでも入所先がなく将来に希望が持てない。この現状をなんとかして欲しいと思っている親がたくさんいる事を知って欲しい。そして入所施設をもっと作って欲しい。
- ・ 身障者や知的障害者への支援はよく見るが、うつ病などの精神障害者への支援はあまりみない。自分がそうなので不安しかない。

<子育て支援について>

- ・ 少子化が進んでおり、子育て世代の孤立化が進んでいるように思える。保育園の無償化（1歳）や小名浜地区の預かり所・遊び場の増設など子育て支援に力を入れてほしい。（基本的に平まで行くことになるので子どものスケジュールに合わせるのが大変であるため）
- ・ 赤ちゃんが遊ぶ施設はあるが少し大きくなった子が遊ぶ室内遊び場がほしい。
- ・ 有料で、もちろん構いません。子供用品の名前書き、洗濯、買い出しなどの家事、依頼できるところを作ってほしいです。託児所、子供の遊び場、もっと増やしてほしいです。そして、それらを分かるようにしてほしいです。どこに何があるのか、どんな制度があるのか。分からない、知らなかったことのほうが多いです。PTA、旗当番、奉仕作業など、外部委託して有料というのも一つの手だと思います。

<医療について>

- ・ 気軽に子供のことを相談できる小児科がありません。何かしらの病気が流行ると待ち時間が長くなり、子供と二～四時間の待ち時間は無理です。違う病院へと思っても、

かかりつけ医じゃないと診れないと断られます。オンライン診療、電話診療の普及も全く出来てません。軽症でも病院受診しないと保育所に登所できなかったり、働きながら子育てがしづらいです。夜行ける病院も作ってください。現状いわき医療センターに約一万円かけて行くしかありません。休日夜間診療所は小児科の先生じゃなかったり、電話で断られたりします。病院のドライブスルー受付、診察の順番が回ってきたらポケベルやアプリや携帯で知らせる、小児科はベビーカーで入れる・中にベビーカーベビーベッドを設ける、夜専門の病院を作る(昼間やってなくてもいい)など。

- ・ ずっと住んでいくなかで医療、医師不足がなかなか解決されないですね。入院する施設がすくなくすぎます。

<福祉に関する周知啓発について>

- ・ 地域福祉の課題は何か、それに対して行政が何をしているのか、住民に何を協力してほしいのか、きちんと市民に伝わっていないと思います。誰も読まないような計画を作っても意味がないので、計画の策定後、行政の取組や意図を知れるようなミーティング(住民は誰でも参加可)を開いてはどうでしょうか。
- ・ 福祉(高齢者介護、障がい児者福祉、児童福祉)は社会全体で協力して実施していくべきと考えている。その場合正しい知識の取得は前提条件であり必須であることから、普段福祉にかかわらない人も含めて周知啓発を行っていくべきだと考える。
- ・ 福祉には身体的なものと生活があると思う。身体的なものは福祉は重要であるが、生活に関しては「自分でやりたくない」という甘えの福祉も存在している。ここは分けて考えるべきである。生活の困りはあくまで自分の因果関係からであり、これを若い人たちに教育する事だと思う。これからの人をみすいた、福祉を受けない為の福祉教育は必要と思います。

<防災について>

- ・ 昔は、遠い親戚など親世代からの交流があった中で近所付き合いがあったが、現在はたまたま同じ場所に住み始めた人たちが交流することを前提に地域福祉を考えた方がいいと思う。最低限、緊急時に協力できるように、定期的に避難場所や物資の場所や数、ここだけは自分たちで準備することというお知らせすることは必要だと思う。あとSNSで定期的に通知するとか。
- ・ 災害等の非常事態においては、隣近所とのつながり・協力が重要であり、そのために普段からつながりを持てる関係を作っておく必要があるが、少子高齢化が進行した現状では、地域でも人材不足が課題となっており、地域を中心とした活動・取り組みにも限界がある。今後は、地域の人たちだけで物事を解決していくのは非常に困難なので、公的機関の関わり方が重要になってくると思う。

<交通について>

- ・ いわき市は広域な地域ということで、自動車を使った移動が中心である。バスの減便の影響も大きく、交通にアクセスできない交通弱者を生んでいると思う。地域にあ

る福祉機関が、利用者だけでなく、地域住民や地域の事業者、社会資源ともしっかりをもっていくことで、地域住民への理解が生まれ、より協力してくれる人の拡大につながるのではないかと思います。

- ・ 病院受診や買い物をするための足がない高齢者に対する支援を事業者が積極的に取り組めるよう役所で働きかける必要があると考える。（病院は送迎バスが出ているが麻痺がある人が乗降できないケースもある）
- ・ 交通の便が悪い。車の運転が出来なくなったらどうしていいかわからない。

<行政に対する意見>

- ・ 地区センターなどに問い合わせることが多くその都度違う方が担当していただきますが窓口で連携が取れておらずとても時間がかかる時があります。介護の合間を見つけて窓口まで行っているのも手続きなどもう少しスムーズに行っていただけると助かります。
- ・ 福祉関連の申請や届出のため、仕事を休むことができない。何でもかんでも役所に来させるのではなく、民間で働いている我々に寄り添ったサービスに組み替える努力を行政には求める。スマホでのオンライン手続きをさらに充実させてほしい。
- ・ 福祉を充実させすぎた結果、相対的に普通の人の生活が苦しくなっていると思います。働き手であり、消費者であり、主な納税者でもある中間層の現役世代をもっと大切にしてほしいです。またそういった人たちが結婚して子供を持って普通に生活できる（少なくともそういった希望を持てる）社会を目指してほしいです。